

小牧市
在宅医療・介護連携に関する
アンケート調査報告書



キミと一緒に、育っていきたい。
Komaki

令和元年 1 2 月

愛知県 小牧市

目 次

第1章 調査の概要	2
1 調査の目的	2
2 アンケート調査の概要	2
(1) 調査項目	2
(2) 調査設計	2
(3) 回収結果	2
3 報告書の読み方	2
第2章 調査結果からみた課題のまとめ	4
第3章 在宅医療・介護連携に関する市民調査結果	8
(1) 回答者について	8
(2) かかりつけ医について	13
(3) 在宅医療について.....	16
(4) 在宅医療・在宅介護のイメージについて	22
(5) 医療・介護情報について	23
(6) わた史ノートについて	25
第4章 自由記載意見等の取りまとめ	29
資料編	41

第1章

調査の概要

第1章 調査の概要

1 調査の目的

本市では、市民が可能な限り住み慣れた地域・家庭で自分らしく暮らすことができるよう、在宅医療・在宅介護の支援体制づくりに取り組んでいます。

そこで、在宅医療・在宅介護の諸施策について、市民にどの程度周知・活用がなされているかを把握し、今後の在宅医療・在宅介護に関する支援体制の推進を図るためにアンケートを実施しました。

2 アンケート調査の概要

(1) 調査項目

I	あなたご自身について……………	5問
II	かかりつけ医について……………	4問
III	在宅医療について……………	10問
IV	在宅医療・在宅介護のイメージについて……………	1問
V	医療・介護情報について……………	2問
VI	わた史ノートについて……………	4問
VII	自由意見……………	1問

(2) 調査設計

【調査地域】小牧市全域

【調査対象】小牧市内に居住する満40歳以上の男女

【標本数】2,000

【抽出方法】無作為抽出

【調査方法】郵送法

【調査期間】令和元年7月1日～8月2日

(3) 回収結果

①回収数……1,100

②回収率……55.0%

3 報告書の読み方

①調査票の結果の数値は百分比(%)で示しています。これらの数値は小数点第2位以下を四捨五入しているため、全項目の回答構成比の合計が100%とならない場合があります。

②複数の回答を求めた質問では、回答構成比の合計が100%を超えることがあります。

③報告書の図表では、コンピュータ入力の都合上、回答選択肢を要約している場合があります。

④割合の表記については40%台を例として挙げると、40.1～45.0を「4割強」、45.1～49.9を「5割弱」としています。

第2章

調査結果からみた

課題のまとめ

第2章 調査結果からみた課題のまとめ

調査結果から抽出された課題として、大きく、「かかりつけ医」、「在宅医療・在宅介護」、「相談・情報提供」、「わた史ノート」という4つの視点にまとめました。

視点1 かかりつけ医

課題1 「かかりつけ医」をもっていない人、「かかりつけ医」をもつことの必要性・重要性が認識できるよう、ターゲットを絞り、その方にとって必要な情報を提供できる環境づくりが必要です。

○市民の約7割が「かかりつけ医がいる」と回答し、かかりつけ医のいる医療機関は「市内の診療所」(66.5%)が最も多く、次いで「市内の病院(小牧市民病院以外の病院)」(20.5%)、「市内の病院(小牧市民病院)」(14.5%)の順となっています。

《問6-1・2》

○かかりつけ医がない方の理由では、「かかりつけ医を必要とするような病気になっただとがない」(71.8%)が最も多く、次いで「どの医師、医療機関をかかりつけ医にしているかわからない」(32.3%)、「かかりつけ医にしたいような医師、医療機関がない」(11.6%)の順となっています。《問6-3》

○かかりつけ医を選ぶ際に重要視することでは、「自宅や勤務先から近い」(61.5%)が最も多く、次いで「医師の診療技術や経験等が信頼できる」(61.0%)、「病気や治療についてよく説明してくれる」(57.8%)の順となっています。《問7》

かかりつけ医の普及啓発に向けて、2018年4月施行の診療報酬改定において、800円の初診料加算(機能強化加算)を新設し、報酬を手厚くし、後押しをしているにも関わらず、依然として3割弱の方がかかりつけ医を持っていないという結果となりました。

その中でも、80歳以上で「かかりつけ医にしたいような医師、医療機関がない」が42.9%と突出して高い状況にあることから、かかりつけ医の必要性・重要性を認識しはじめてきた段階で、より具体的な情報提供が行われる必要があります。

視点2 在宅医療・在宅介護

課題2 市民の9割強が在宅医療を知っていますが、小牧市内での取り組みについて知っている人は昨年度よりわずかに減少しています。在宅医療・在宅介護に対する小牧市内の現状について、市民の理解を深める必要があります。

- 在宅医療の周知度は、『在宅医療を知っている』が9割強となっています。また、訪問診療の周知度も、「言葉も内容も知っている」と「言葉は知っているが、内容は知らない」をあわせた『訪問診療を知っている』も9割強となっています。一方、小牧市内に訪問診療に取り組んでいる病院、診療所があることを「知っている」方は2割強となっています。《問8～10》
- 訪問看護の周知度は、『訪問看護を知っている』が9割弱、訪問歯科診療の周知度は、『訪問歯科診療を知っている』が6割弱、訪問薬剤管理指導の周知度は、『訪問薬剤管理指導を知っている』が約3割となっています。また、各訪問医療を小牧市内で実施している事業所があることを「知っている」方は1割～2割前後となっています。《問11～16》
- 在宅医療の希望及び実現可否では、「希望するが、実現は難しいと思う」(51.7%)が最も多く、次いで「分からない(考えたことがない)」(21.8%)、「希望しない」(14.9%)の順となっています。《問17》
- 在宅医療・在宅介護に関する不安の度合いをみると、「家族に負担がかかるという不安がある」と「費用が高額になるという不安がある」がともに6割前後となっています。《問18》

在宅医療・在宅介護の理解や小牧市内の現状について経年変化を見ていくと、頭打ちの状況にあることがわかります。これまで以上に理解を深めるためには、従来、小牧市が行ってきた広報活動以外にも様々な手法により、在宅医療・在宅介護に関する周知度を高めていく必要があります。

自由意見として、「在宅の場合、病状の急変時が不安」「費用負担が分からない」「終末期は、長年住みなれた自宅が一番だが、子どもに負担をかける」などの声が多く寄せられています。

そのため、在宅医療・介護連携サポートセンターをはじめ、行政や関係機関が一体となって在宅医療・在宅介護の可能性を知ってもらうための情報の周知のほか、小牧市内の医療・介護資源、小牧市における取り組みなどを分かりやすい形で情報提供していく必要があります。

視点3 相談・情報提供

課題3 医療・介護の最初の相談先として、在宅医療・介護連携サポートセンターや地域包括支援センターの認知度を高めるとともに、相談体制の充実が必要です。

- 医療・介護についての相談先は、「親族」(60.5%)が最も多く、次いで「医師・歯科医師・看護師」(36.5%)の順となっています。《問19》
- 必要と思う医療・介護情報は、「医療・介護の制度や費用について」(61.5%)が最も多く、次いで「休日・夜間の診療体制や緊急医療機関について」(59.9%)、「医療・介護の相談窓口について」(51.5%)の順となっています。《問20》

地域住民の身近な相談機関として、在宅医療・介護連携サポートセンターや地域包括支援センターがあることを認知していただき、実際に困りごとが生じた時に、利用してもらえるようにする必要があります。

自由意見の中には相談窓口が設置されているにも関わらず「相談先が分からない」などの声や、相談対応に対する意見もあることから、住民の求める相談対応に向けて、相談窓口の質の向上を図ることが必要です。

また、医療や介護が必要になる前の段階から、こうした情報を周知することが重要であり、情報発信のあり方についても、検討が必要です。

視点4 わた史ノート

課題4 市民の2割強が、わた史ノートを知っていますが、終末期について深く考えたことがない市民も4割弱と多くいます。希望に沿った適切なケアを行うためにも終末期について情報提供を行っていく必要があります。

- わた史ノートの周知状況は、『わた史ノートを知っている』が3割弱で、平成30年度と比較すると2.0^{ポイント}高くなっており、わた史ノートの周知度が年々広がってきています。なお、わた史ノートの所持状況は、「持っていない」(77.4%)が最も多くなっています。《問21～22》
- 終末期を迎えたい場所は、「分からない(考えたことがない)」(37.4%)が最も多く、次いで「自宅」(35.0%)、「病院」(16.4%)の順となっています。《問24》

終末期を迎えたい場所として「分からない(考えたことがない)」が最も多いことからわかるように、終末期について深く考えておらず、終末期の準備ができていない市民は数多くいます。わた史ノートの周知や活用に向けた出前講座などを通じて、終末期について市民が考え、自分らしく生きていくための支援を行う必要があります。

第3章

在宅医療・介護連携に関する

市民調査結果

第3章 在宅医療・介護連携に関する市民調査結果

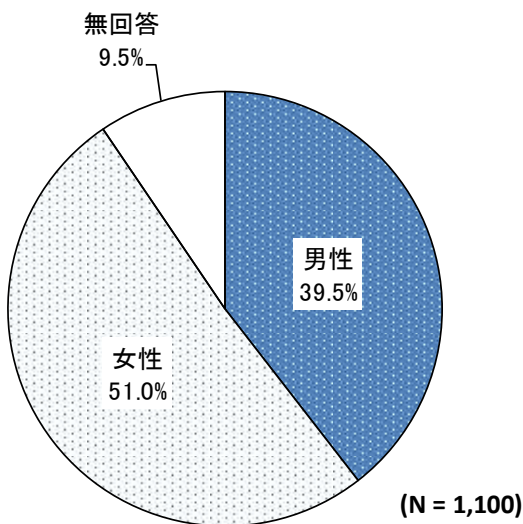
(1) 回答者について

回答者は、「男性」が39.5%、「女性」が51.0%となっています。

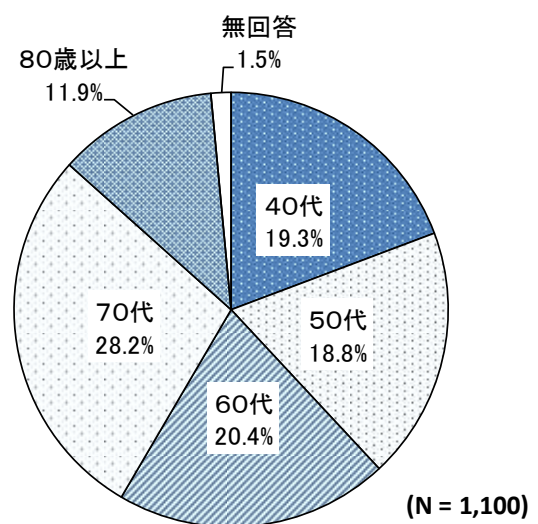
また、年齢は「70代」(28.2%)が最も多く、次いで「60代」(20.4%)、「40代」(19.3%)の順となっています。

家族構成をみると、「子世代と同居」(36.2%)が最も多く、次いで「夫婦のみ」(31.6%)、「ひとり暮らし」(9.4%)の順となっています。

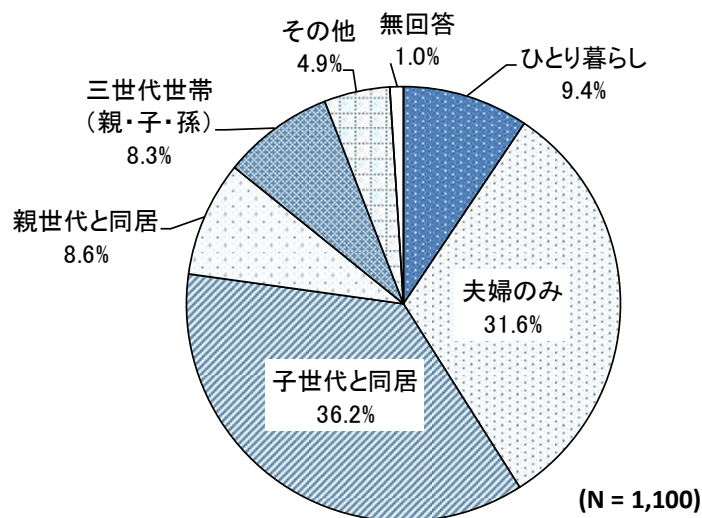
問 1-1 性別



問 1-2 年齢



問 2 家族構成

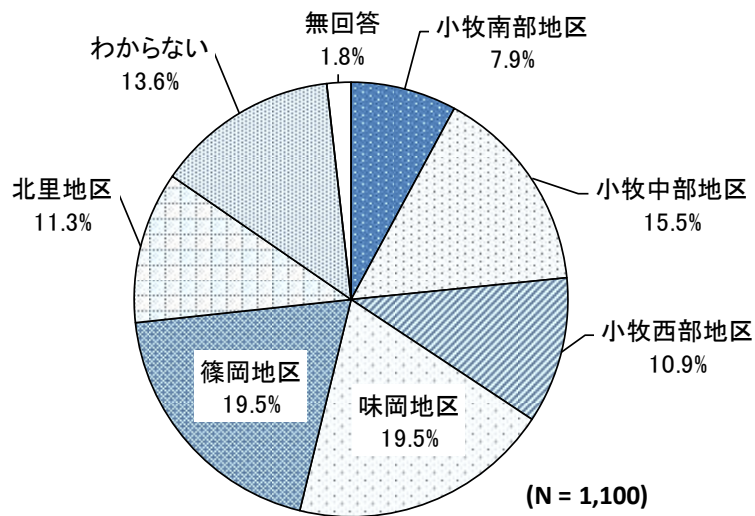


居住地区は「篠岡地区」・「味岡地区」(19.5%)が最も多く、次いで「小牧中部地区」(15.5%)の順となっています。

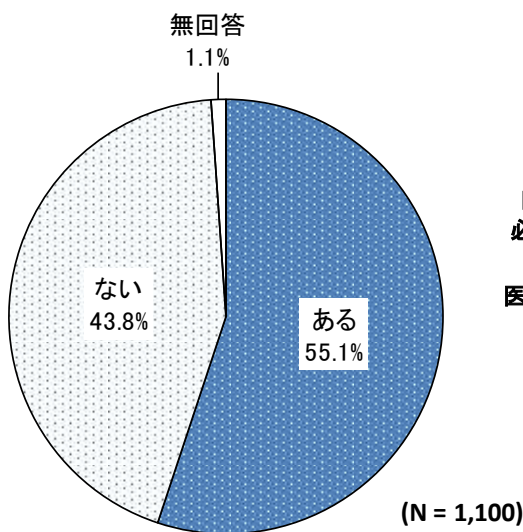
定期的な治療が必要な病気が「ある」方は55.1%、「ない」方は43.8%となっています。

医療や介護に関して感じている不安は、「自分や家族に介護が必要になったときのこと」(70.1%)が最も多く、次いで「医療・介護の費用のこと」(54.9%)、「自分や家族の健康・病気のこと」(52.3%)の順となっています。一方、「不安はない」方は7.4%となっています。

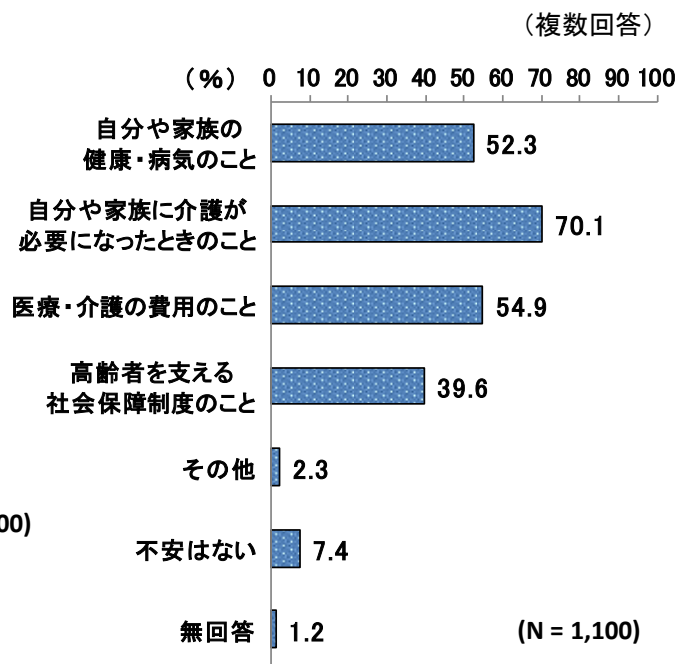
問3 居住地区



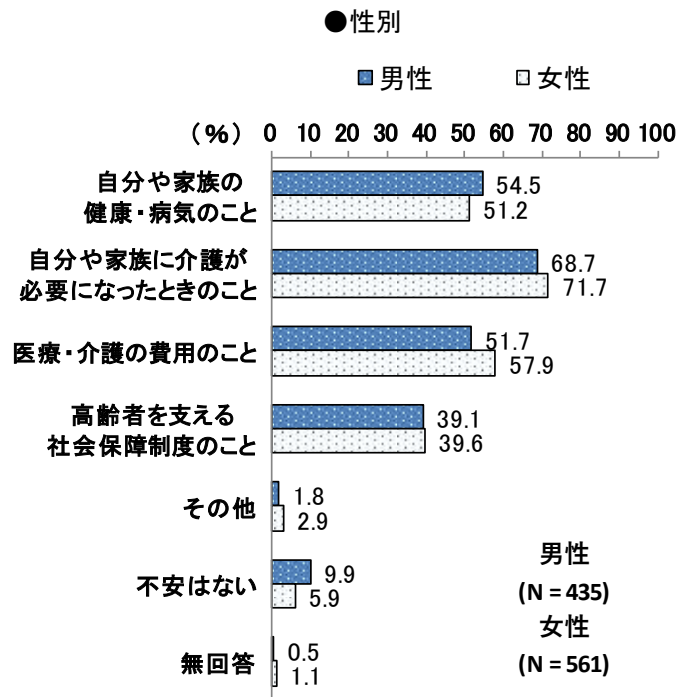
問4 定期的な治療が必要な病気の有無



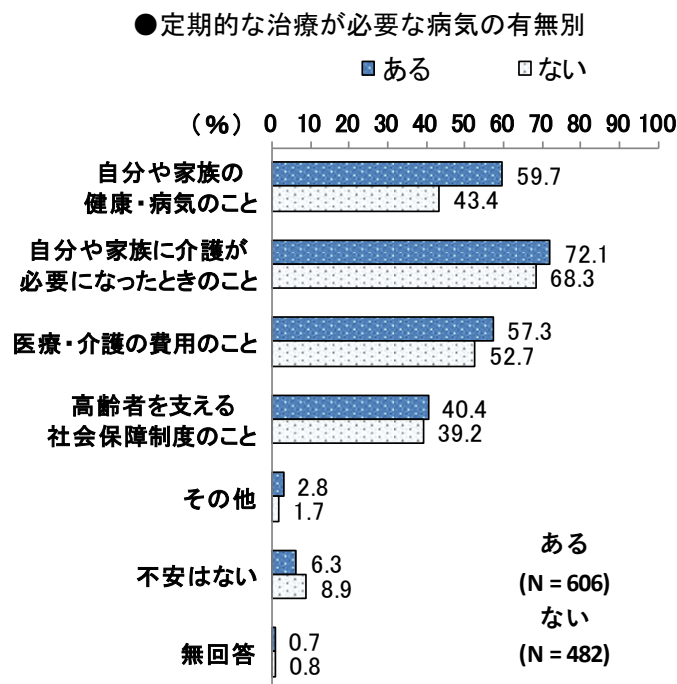
問5 医療や介護に関して感じている不安 (複数回答)



【参考】問5 医療や介護に関して感じている不安

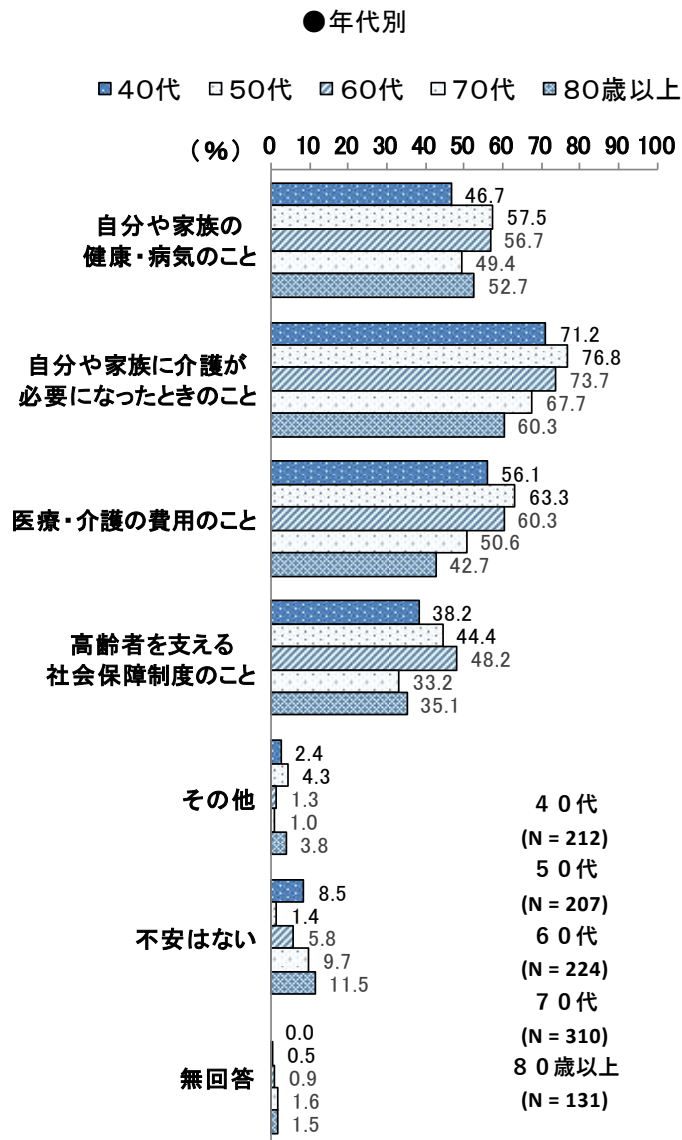


※性別が未記入の方は含んでおりません



※治療の必要の有無が未記入の方は含んでおりません

【参考】問5 医療や介護に関して感じている不安



※年代が未記入の方は含んでおりません

問5. 医療や介護に関して、現在不安を感じていること（その他の理由）
知的障害者がいるので希望する施設へ入所できるか不安を感じている
要介護になった時、高齢者が多くホーム等へ入所出来るか心配
いつまで働けるか、生活費のことなど
障害児の成人後のこと
ヘルパーさんの時間が短い
自分が長期で入院または病気した時、親の介護を誰がみるのか、と思うと不安
自分の病気のこと、介護が必要になった時のこと
子どもたちが遠いので不安
一人暮らしになった時のことを思うと不安
今後の医療制度、健康保険制度が改悪されたり破綻したりしないか、医師や看護師、介護士さんの労働環境待遇の改善、人材確保等
老後の生活費用と年金支給
医療代の負担と、健康保険料の負担
遠距離の親の介護
動けなくなった時の施設、料金など
仕事と介護の両方ができるか
現在自家用車で通院、買い物などをしてるが、免許証返却も考えなければならない。高齢者対象の交通手段（タクシーや無料バス網の編成を密にしてほしい）を検討してほしい
家族に介護が必要になっている今
耳の不自由な人とのコミュニケーションを十分とってもらえるか

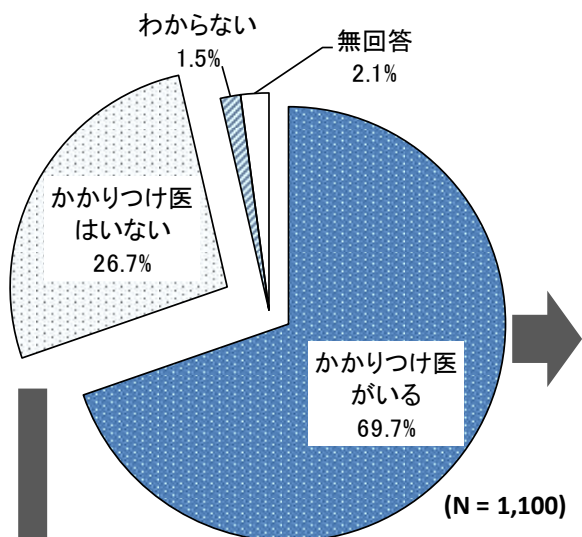
(2) かかりつけ医について

かかりつけ医の有無をみると、「かかりつけ医がいる」が69.7%、「かかりつけ医はいない」が26.7%となっています。

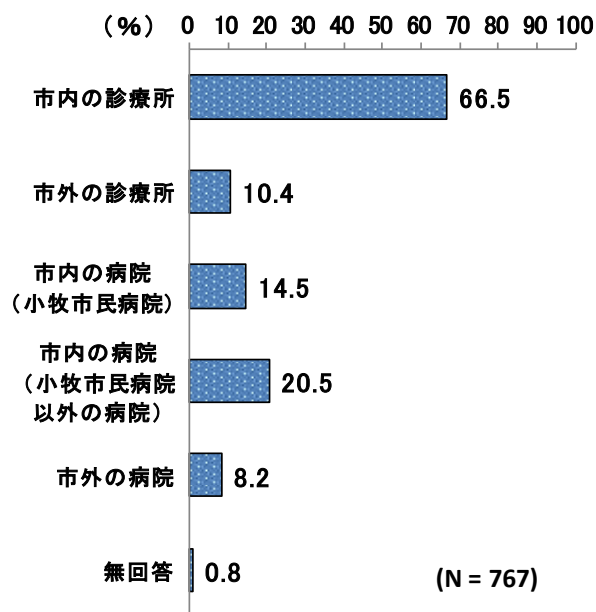
かかりつけ医のいる医療機関は、「市内の診療所」(66.5%)が最も多く、次いで「市内の病院(小牧市民病院以外の病院)」(20.5%)、「市内の病院(小牧市民病院)」(14.5%)の順となっています。

一方、かかりつけ医のいない理由は、「かかりつけ医を必要とするような病気になっただけ」(71.8%)が最も多く、次いで「どの医師、医療機関をかかりつけ医にしたいかわからない」(32.3%)、「かかりつけ医にしたいような医師、医療機関がない」(11.6%)の順となっています。

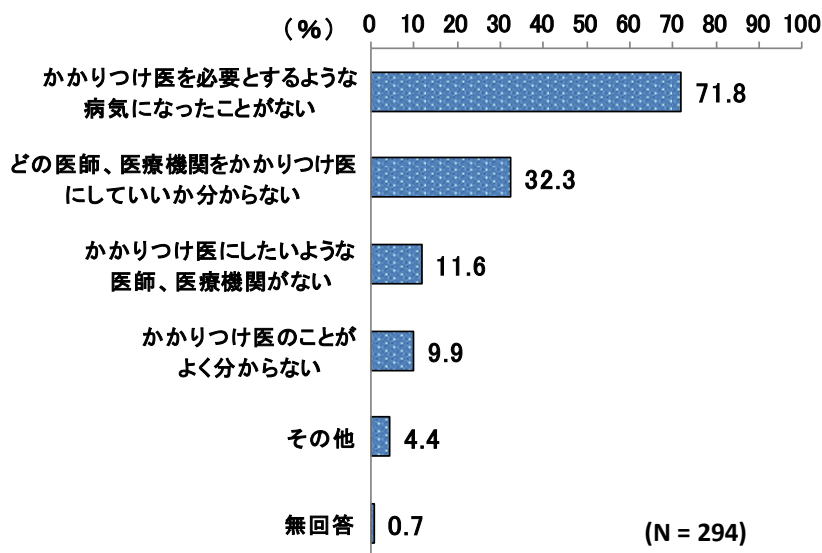
問 6-1 かかりつけ医の有無



問 6-2 かかりつけ医のいる医療機関 (複数回答)

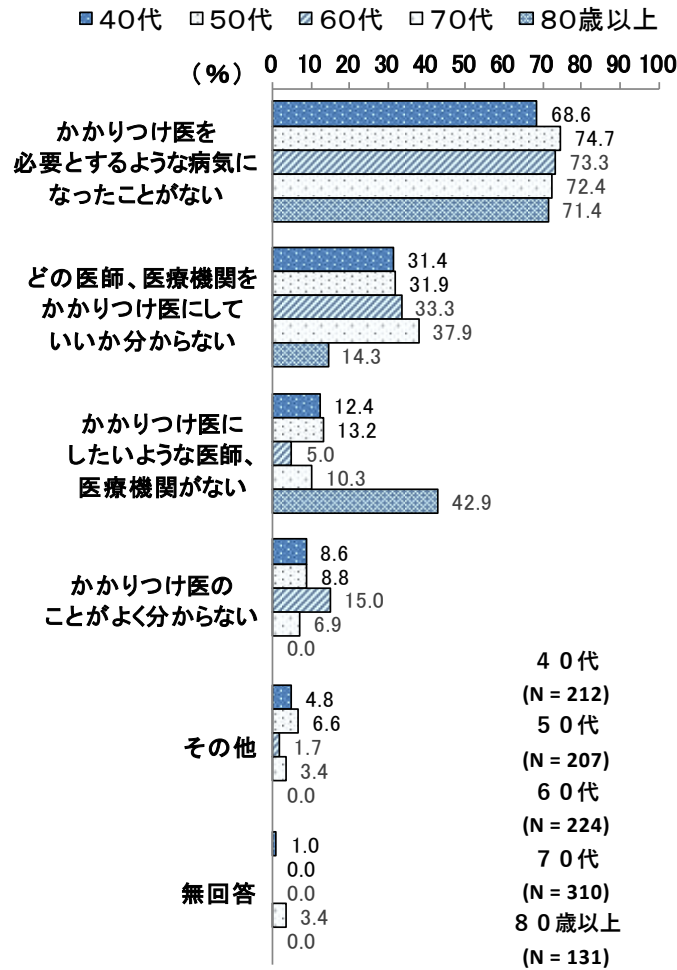


問 6-3 かかりつけ医のいない理由 (複数回答)



【参考】問 6-3 かかりつけ医のいない理由

●年代別

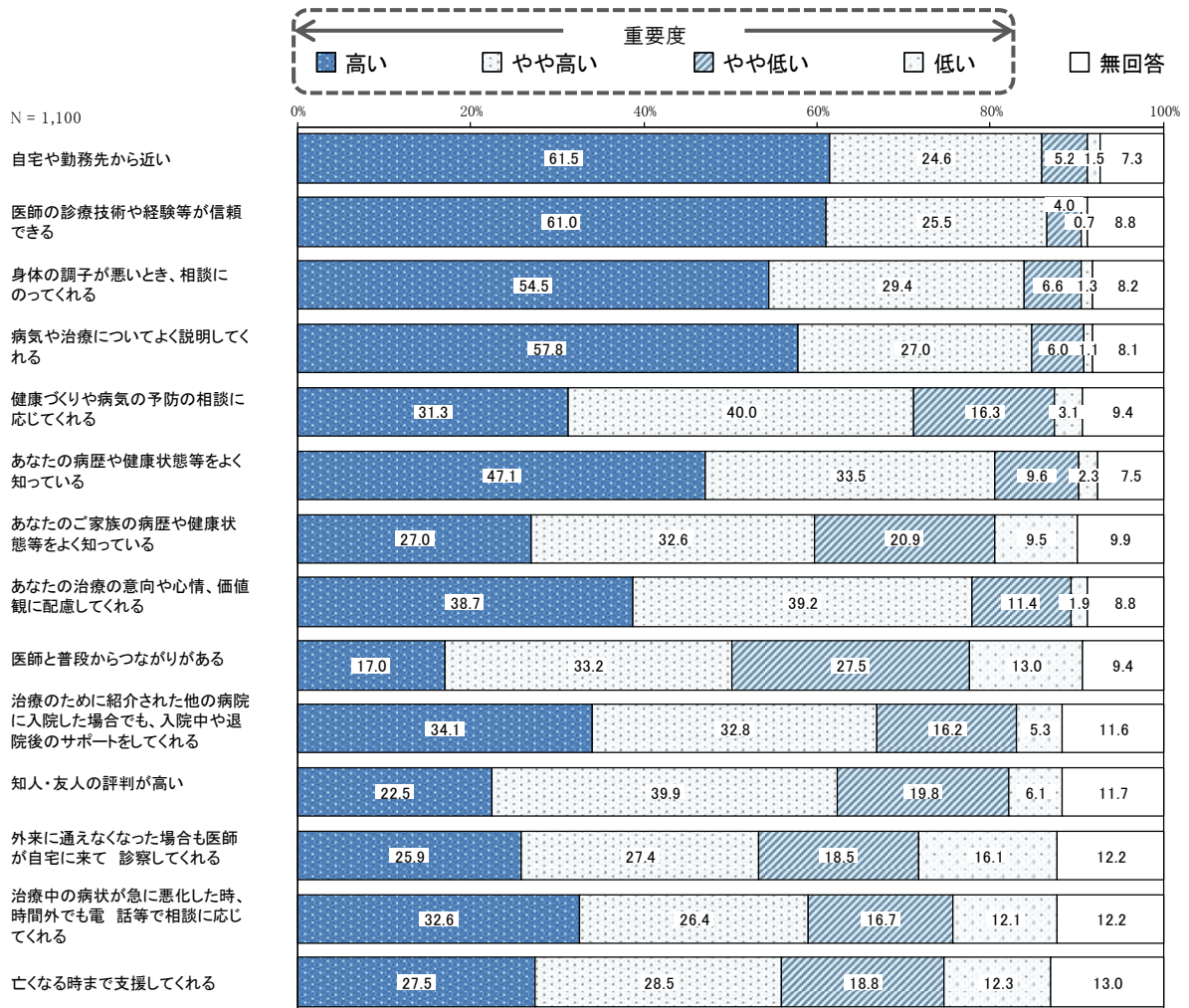


※年代が未記入の方は含んでおりません

問 6-3. 問 6-1 で「かかりつけ医はいない」具体的な理由
今の所必要としていない為と、自分のことは一番気をつけているため
定期的に（1ヶ月に1回）病院へ行きますが、そのお医者さんは忙しすぎて、なかなかじっくりと話をすることができませんので、かかりつけ医と呼んでいいのかわかりません
大きな病院じゃないと、入院した時に薬の量がわからない。病気の進行もわからない
退職されてしまって、そのまま他へ足が遠のいてしまった
まだその病院、医師にかかりだして間もないので、かかりつけ医と呼べるほどの関係ではない
専門医のところに行くことが多い
単発で医者へかかる場合がほとんどのため行くところはだいたい決まっているがかかりつけというほどではない

かかりつけ医を選ぶ際に重要度が「高い」とした項目は、「自宅や勤務先から近い」(61.5%)が最も多く、次いで「医師の診療技術や経験等が信頼できる」(61.0%)、「病気や治療についてよく説明してくれる」(57.8%)の順となっています。

問7 かかりつけ医を選ぶ際に重要視すること



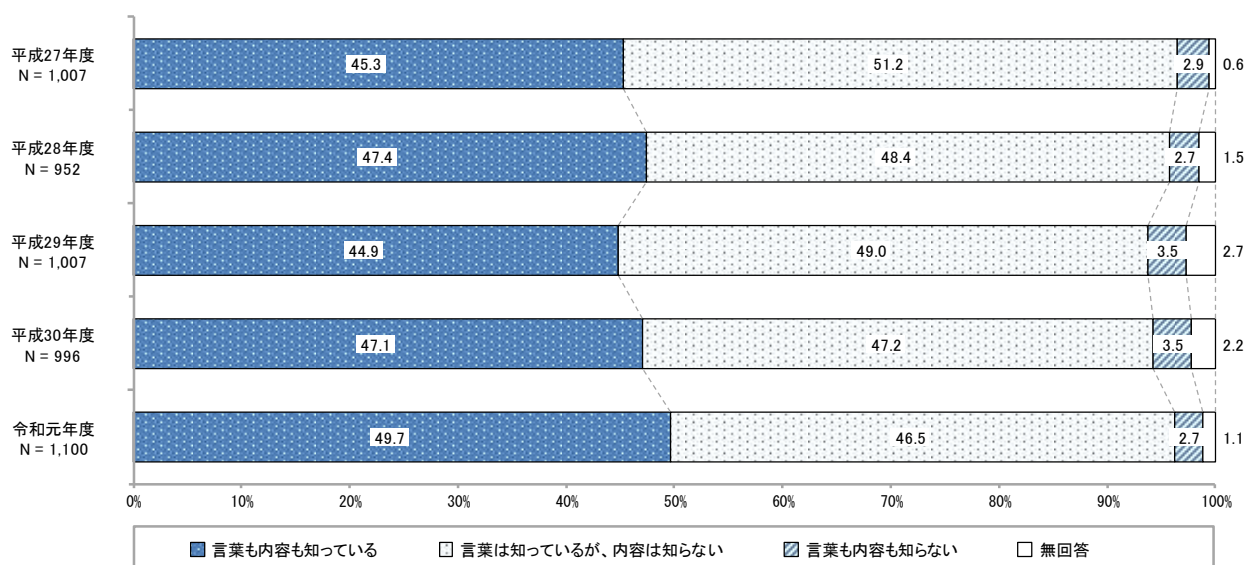
問7. かかりつけ医を選ぶ場合に、何をどの程度、重要視するか（その他の理由）
予約が出来る。待ち時間が短い
医師としての能力。人柄
〇〇科ごとではなく総合診療できる医師
交通の便が良い医院
名前（顔）を覚えてくれている
在宅診察を行ってくれること
薬の選び方（強すぎる薬を出さない）
最後まで1人の人として尊重して扱ってほしい。医療に携わる人の資質のこと（たとえば何気ない言葉の中に愛が感じられるか）、技術・システムプラス人への尊厳を最も重視している

(3) 在宅医療について

在宅医療の周知状況は、「言葉も内容も知っている」(49.7%)と「言葉は知っているが、内容は知らない」(46.5%)をあわせた『在宅医療を知っている』が96.2%となっています。

平成27年度の調査実施から9割台が続いており、在宅医療という言葉はほとんどの方が知っている状況です。

問8 在宅医療の周知状況

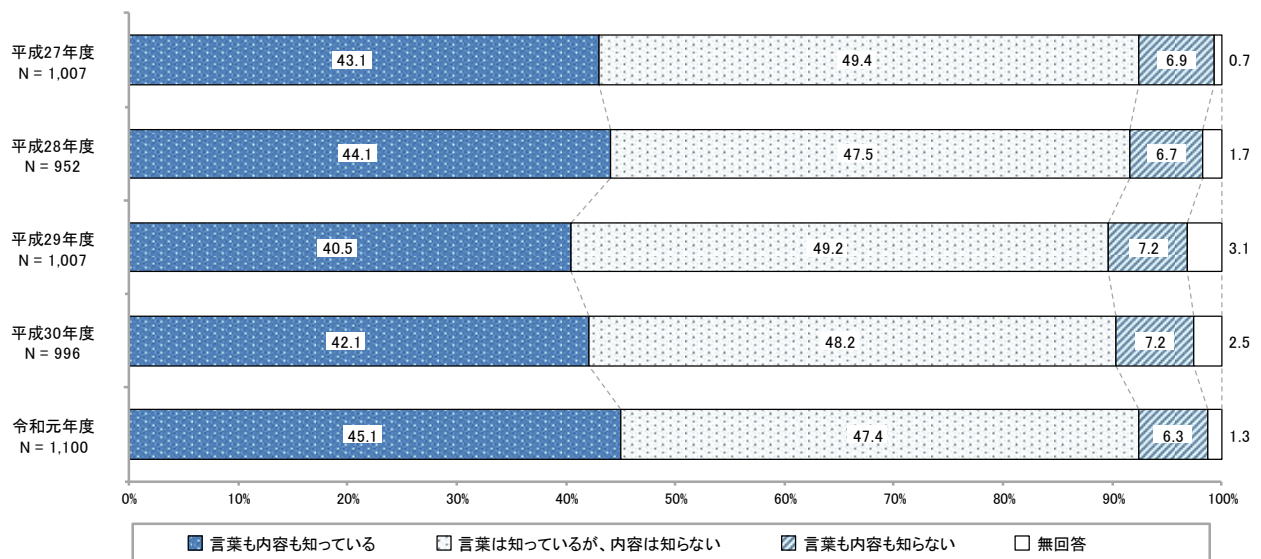


訪問診療の周知状況は、「言葉も内容も知っている」(45.1%)と「言葉は知っているが、内容は知らない」(47.4%)をあわせた『訪問診療を知っている』が92.5%となっています。

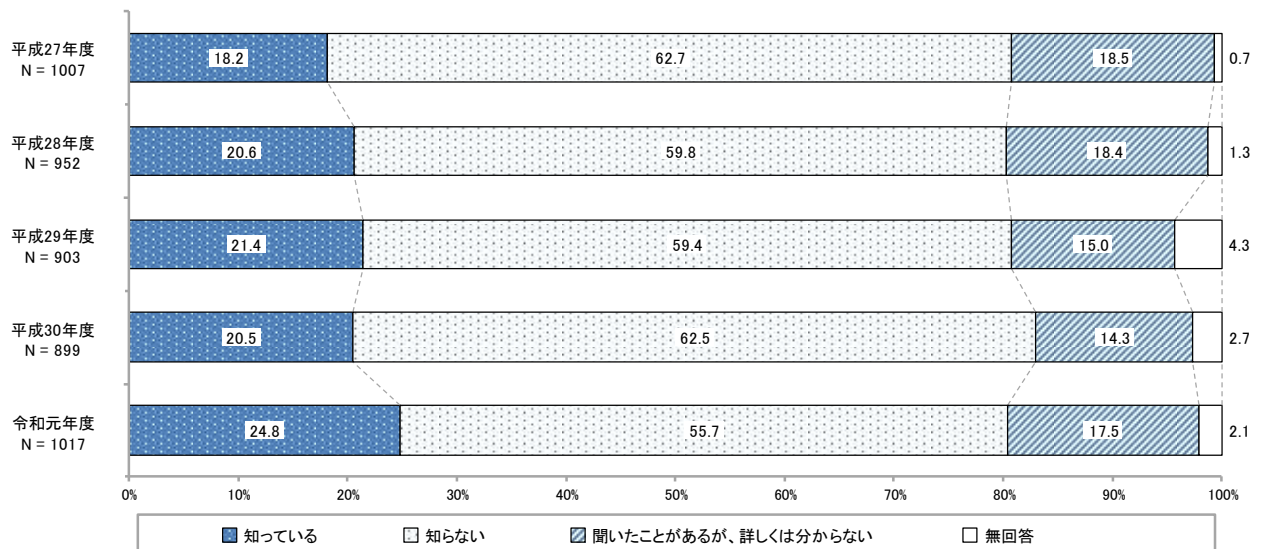
平成27年度の調査実施以来、9割前後で推移しており、訪問診療という言葉もほとんどの方が知っている状況です。

また、小牧市内に訪問診療に取り組んでいる病院、診療所があることの周知状況は、「知っている」が24.8%となっており、平成27年度の調査実施以来、2割前後で推移しています。

問9 訪問診療の周知状況



問10 小牧市内に訪問診療に取り組んでいる病院、診療所があることの周知状況



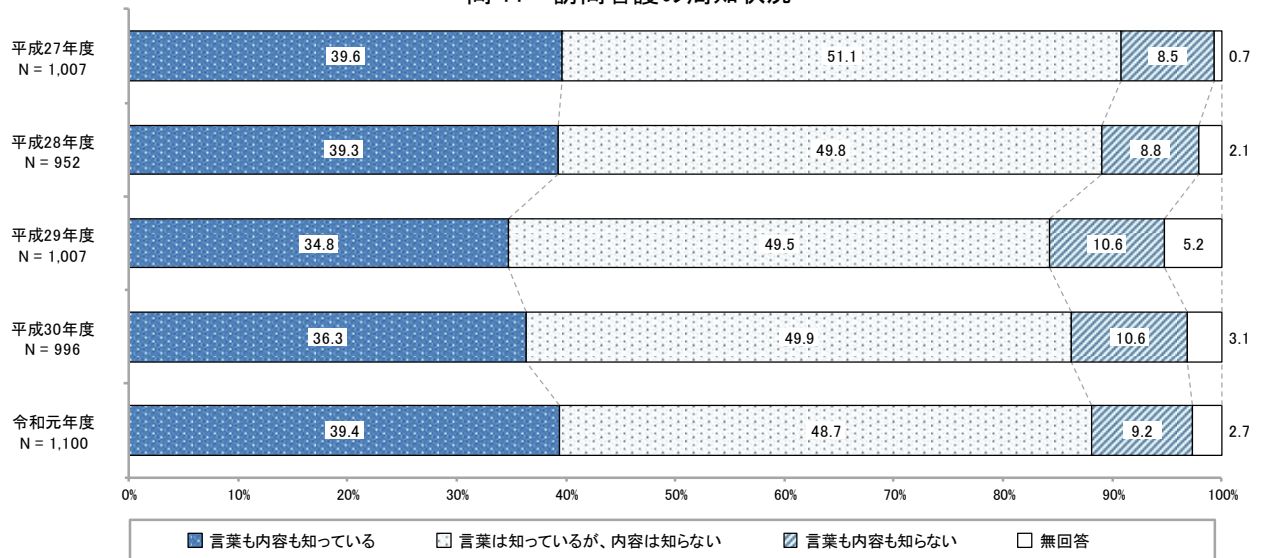
※平成29年度より問9で1,2を回答された方のみ対象としております

訪問看護の周知状況は、「言葉も内容も知っている」(39.4%)と「言葉は知っているが、内容は知らない」(48.7%)をあわせた『訪問看護を知っている』が88.1%となっています。

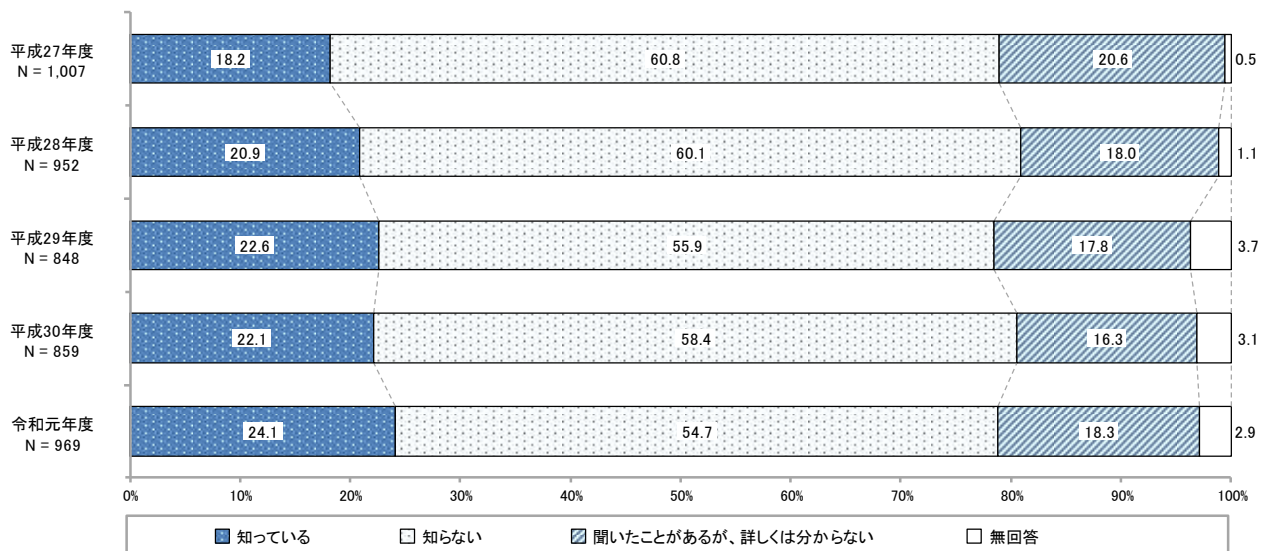
平成27年度の調査実施以来、9割前後で推移しており、訪問看護という言葉もほとんどの方が知っている状況です。

また、小牧市内に訪問看護に取り組んでいる病院、診療所、事業所があることの周知状況は、「知っている」が24.1%となっており、平成27年度の調査実施以来、2割前後で推移しています。

問11 訪問看護の周知状況



問12 小牧市内に訪問看護に取り組んでいる病院、診療所、事業所があることの周知状況



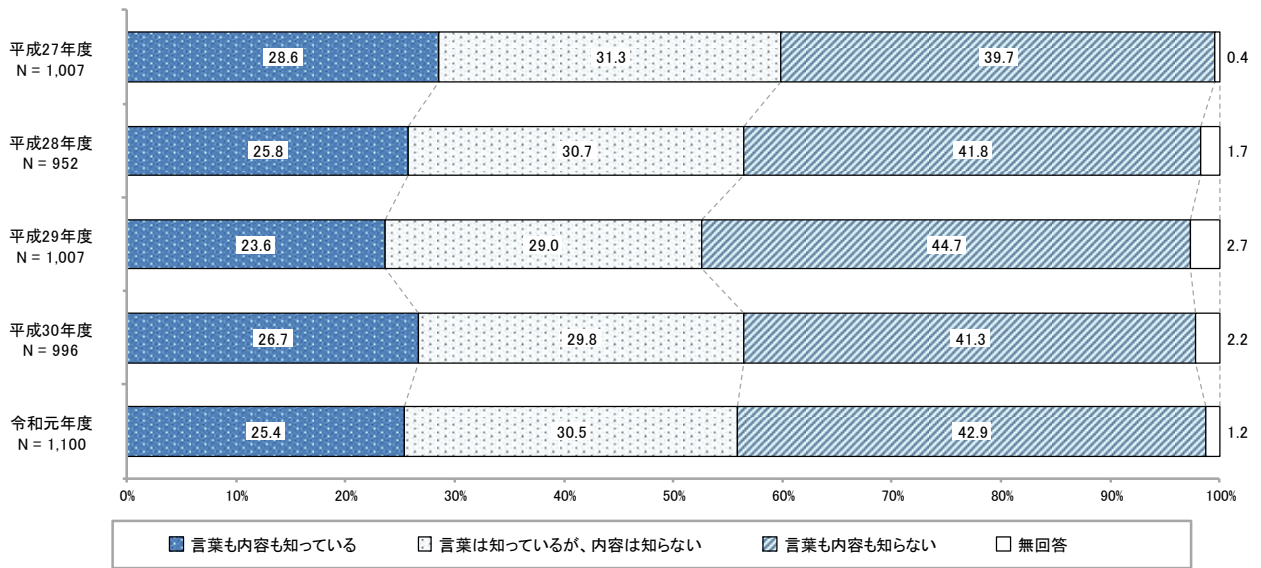
※平成29年度より問11で1,2を回答された方のみ対象としております

訪問歯科診療の周知状況は、「言葉も内容も知っている」(25.4%)と「言葉は知っているが、内容は知らない」(30.5%)をあわせた『訪問歯科診療を知っている』が55.9%となっています。

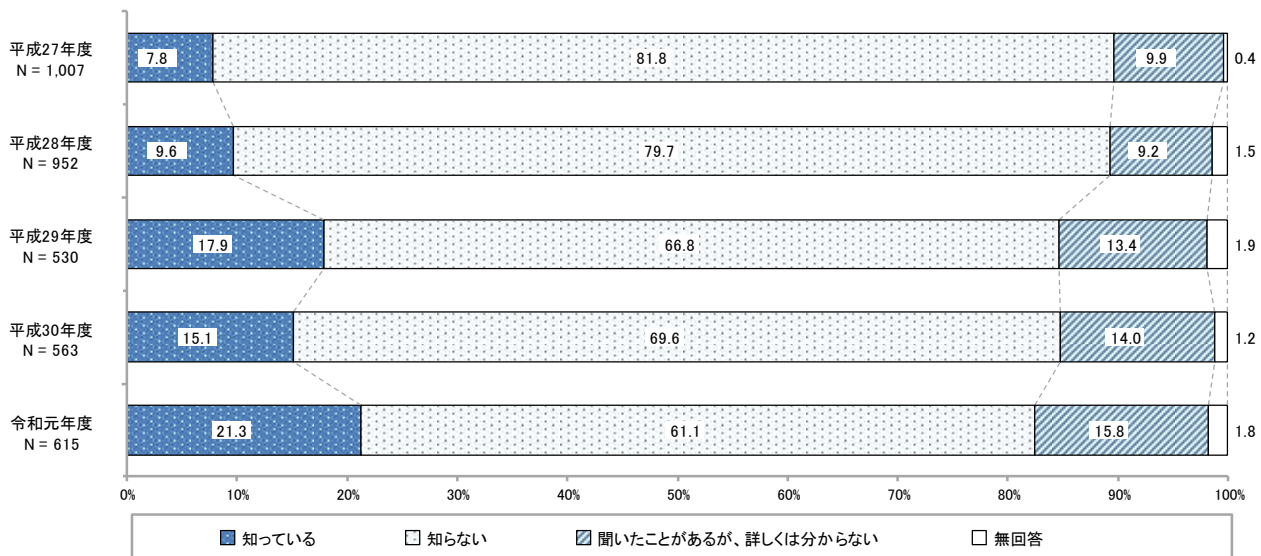
平成27年度の調査実施以来、増減はあるものの、訪問歯科診療という言葉を知っている方が6割前後の方を知っている状況です。

また、小牧市内に訪問歯科診療に取り組んでいる歯科医院があることの周知状況は、「知っている」が21.3%となっており、平成27年度の調査実施以来、増減はあるものの、徐々に高くなってきています。

問13 訪問歯科診療の周知状況



問14 小牧市内に訪問歯科診療に取り組んでいる歯科医院があることの周知状況



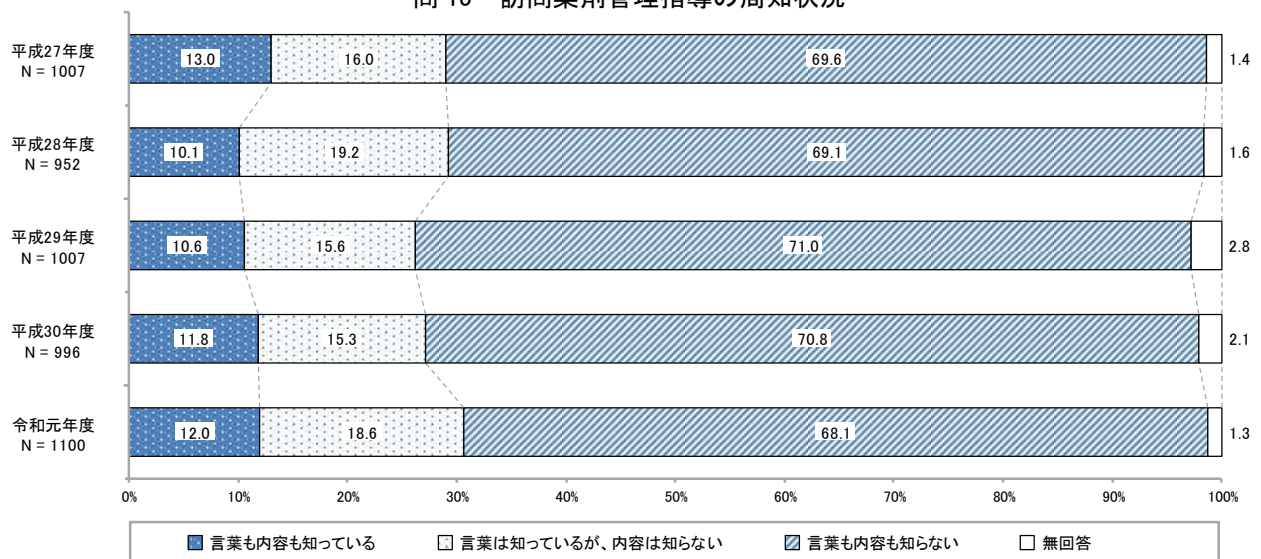
※平成29年度より問13で1,2を回答された方のみ対象としております

訪問薬剤管理指導の周知状況は、「言葉も内容も知っている」(12.0%)と「言葉は知っているが、内容は知らない」(18.6%)とをあわせた『訪問薬剤管理指導を知っている』が30.6%となっています。

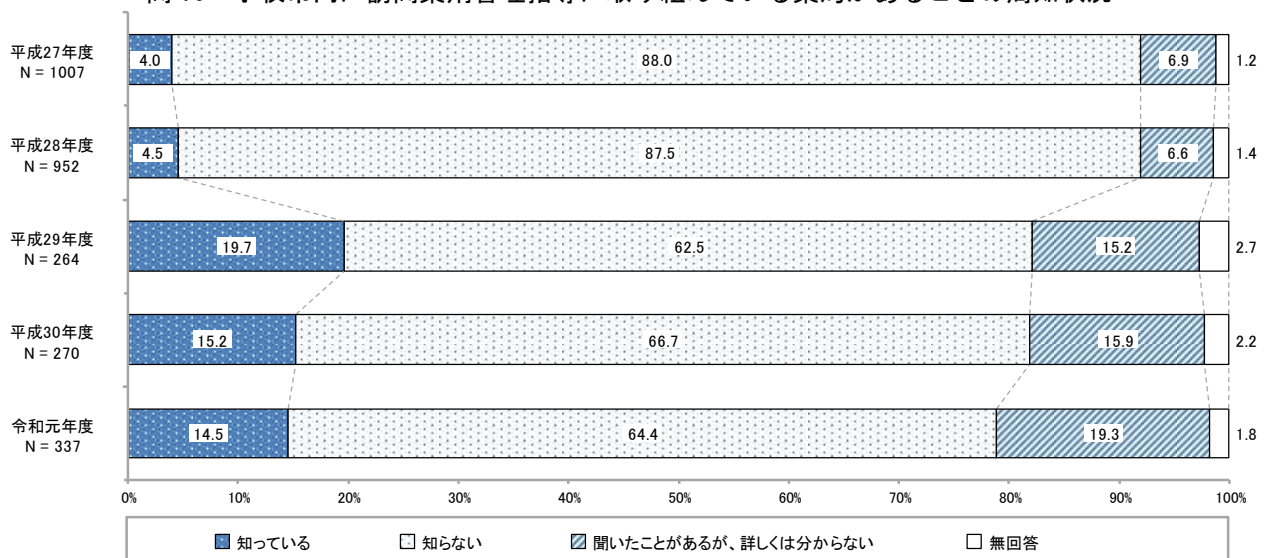
平成27年度の調査実施以来、増減はあるものの、訪問薬剤管理指導という言葉が3割前後の方しか知らない状況です。

また、小牧市内に訪問薬剤管理指導に取り組んでいる薬局があることの周知状況については、「知っている」(14.5%)という結果となっており、平成27年度の調査開始時と比べると、増減はあるものの、高くなっています。

問15 訪問薬剤管理指導の周知状況



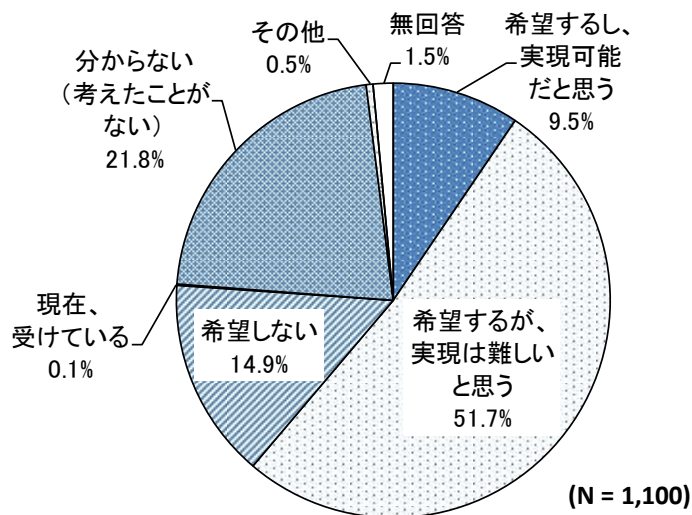
問16 小牧市内に訪問薬剤管理指導に取り組んでいる薬局があることの周知状況



※平成29年度より問15で1,2を回答された方のみ対象としております

在宅医療の希望及び実現可否は、「希望するが、実現は難しいと思う」(51.7%)が最も多く、次いで「分からない(考えたことがない)」(21.8%)、「希望しない」(14.9%)の順となっています。

問 17 在宅医療の希望及び実現可否

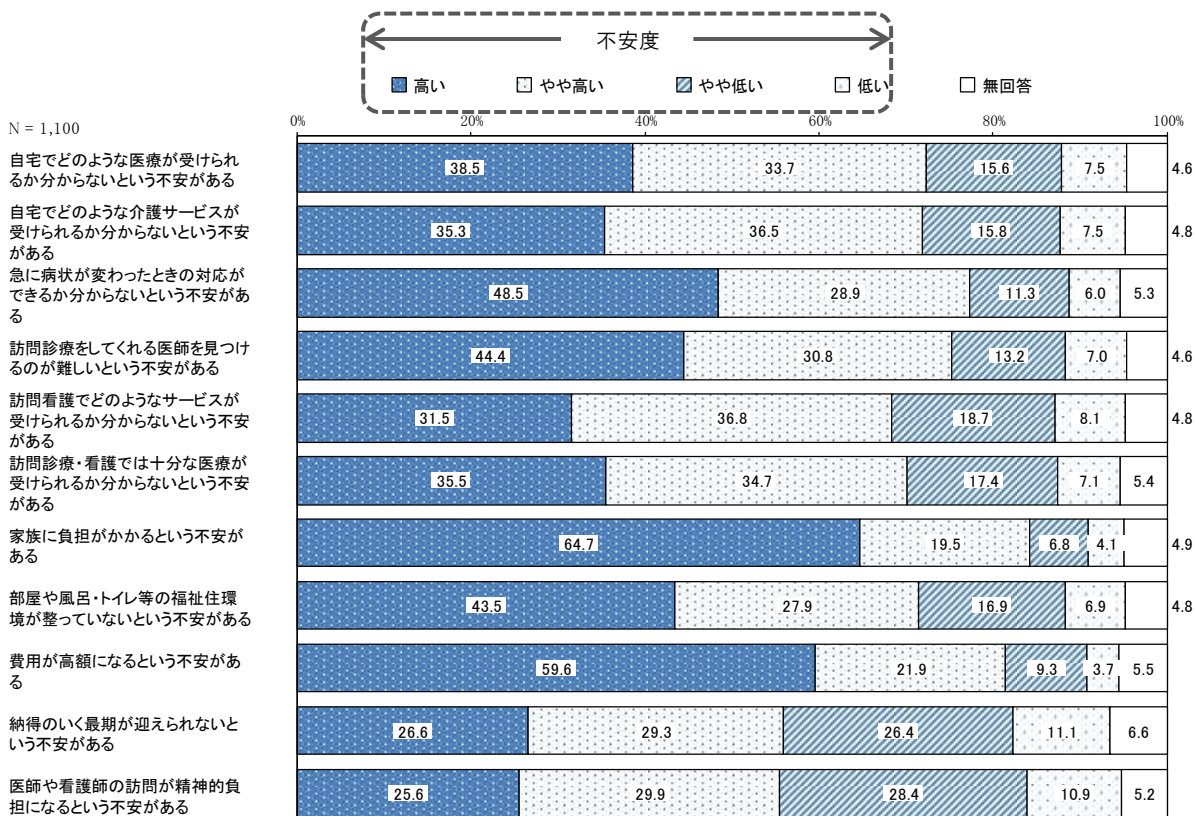


問 17. 在宅医療の希望及び実現可否 (その他の回答)
考える事はあるが、どちらが良いか分からない
費用次第
程度によるので何とも言えない
病の種類で対応が違ってくるのでどれとは言えない

(4) 在宅医療・在宅介護のイメージについて

在宅医療・在宅介護に関する不安の度合いについて「高い」の割合をみると、「家族に負担がかかるという不安がある」(64.7%)、「費用が高額になるという不安がある」(59.6%)の順で高く、ともに6割前後となっています。

問 18 在宅医療・在宅介護に関する不安の度合い



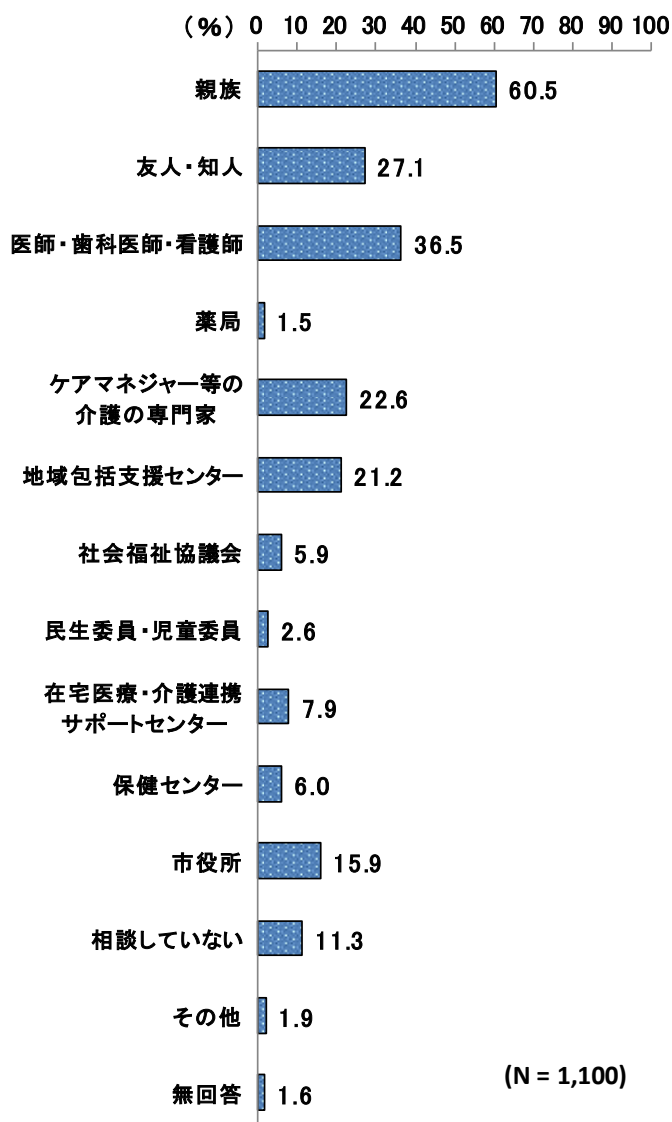
問 18. 自宅で医療・介護を受けることに関する不安 (その他の回答)

人が家に入出入りすること(どのような人か)
訪問、医療や看護を受けるには家の中をきれいにしておかなくては恥ずかしい
最初に何をやればいいのか分からない不安
在宅医療や在宅介護には妻にかなり負担がかかるので心配
すごく手間がかかる感じがする
手順や費用のこと、手続きを一人するのは不安である
家族が亡くなり自分一人となった際の依頼方法、受け入れ体制など
医師や看護師との相性、性別(男性医師に男性看護師だと不安)
一人暮らしの場合だったら、訪問看護等いろいろな人が家にいらっしゃっても十分な対応ができないと思う
一人暮らしの場合、急病などの支援
家族の精神、体力的負担、家族が面倒を見られるか

(5) 医療・介護情報について

医療・介護についての相談先は、「親族」(60.5%)が最も多く、次いで「医師・歯科医師・看護師」(36.5%)、「友人・知人」(27.1%)の順となっています。一方、「相談していない」は11.3%で1割強となっています。

問 19 医療・介護についての相談先（複数回答）



問 19. 医療や介護についてどこ（誰）に相談するか（その他の回答）

インターネット

その時にならないとわからない。少しずつ考える

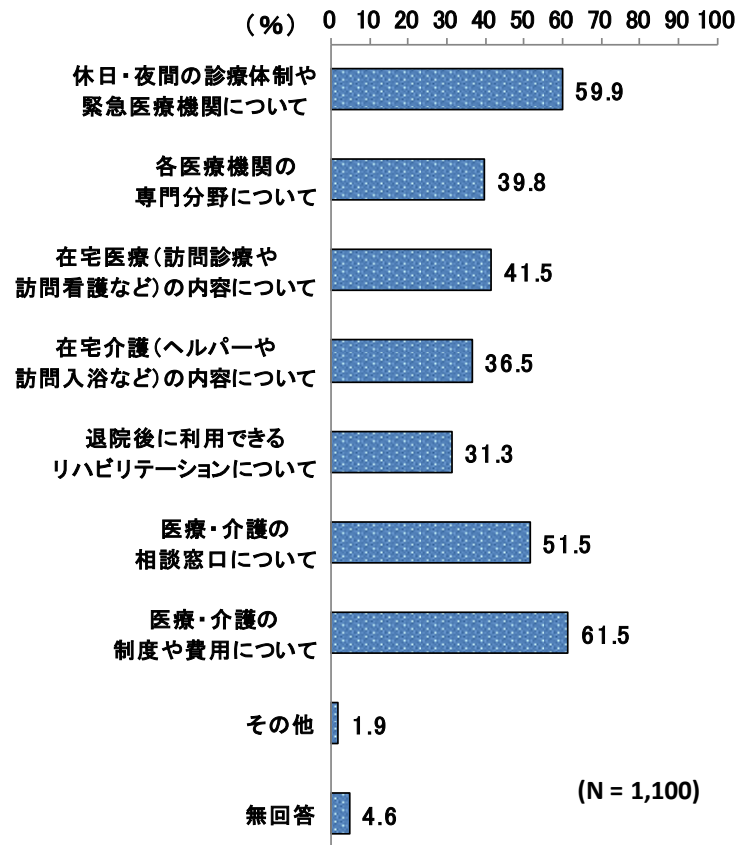
介護者の会

会社

病院内のソーシャルワーカー

必要と思う医療・介護情報は、「医療・介護の制度や費用について」(61.5%)が最も多く、次いで「休日・夜間の診療体制や緊急医療機関について」(59.9%)、「医療・介護の相談窓口について」(51.5%)の順となっています。

問 20 必要と思う医療・介護情報（複数回答）



問 20. 必要と感じる医療・介護の情報（その他の回答）
障害者本人に対する介護医療（親亡き後）の支援
いざという時に即相談できる機関の周知
まだ必要と感じていない
在宅ではなく施設の充実を期待。夫婦二人の老老介護は行き詰まる
働く社員の質の良さ（知識、技術）
介護施設の情報

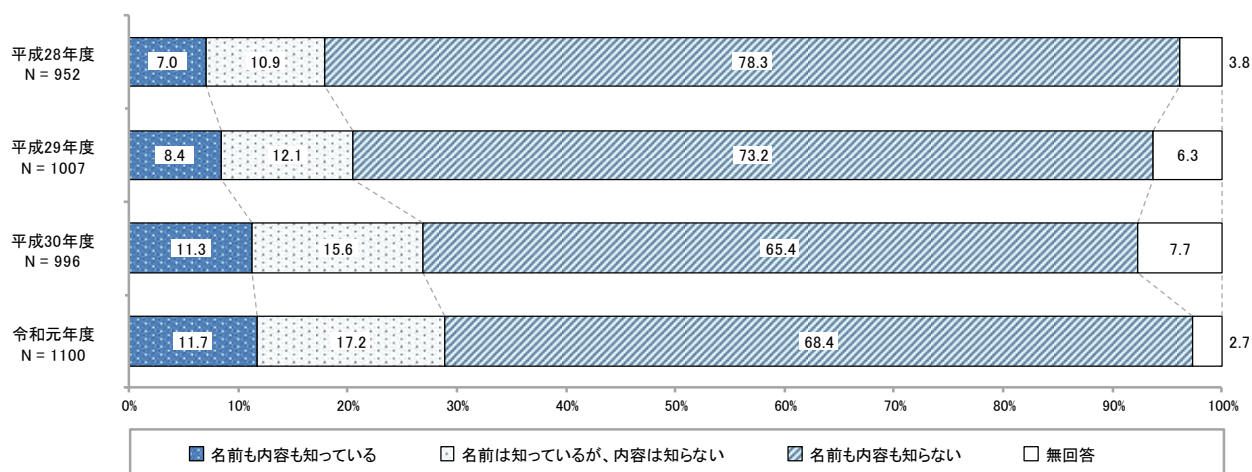
(6) わた史ノートについて

わた史ノートの周知状況は、「名前も内容も知らない」(68.4%)が最も多く、平成28年度と比較すると9.9ポイント減少しています。しかし、「名前は知っているが、内容は知らない」(17.2%)、「名前も内容も知っている」(11.7%)をあわせた『わた史ノートを知っている』が28.9%と、平成28年度と比較すると11.0ポイント増加し、わた史ノートが徐々に広がっています。

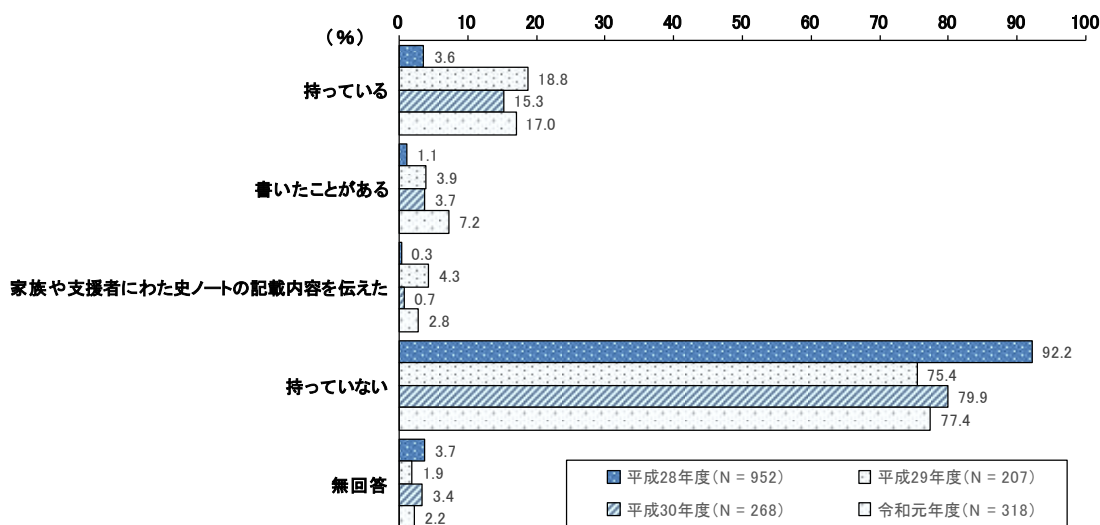
その中でも、わた史ノートを書いたことがある方について、平成28年度の調査実施以来、年々増加してきており、令和元年度は7.2%となっています。

※わた史ノートに関する設問は、平成28年度から実施

問21 わた史ノートの周知状況



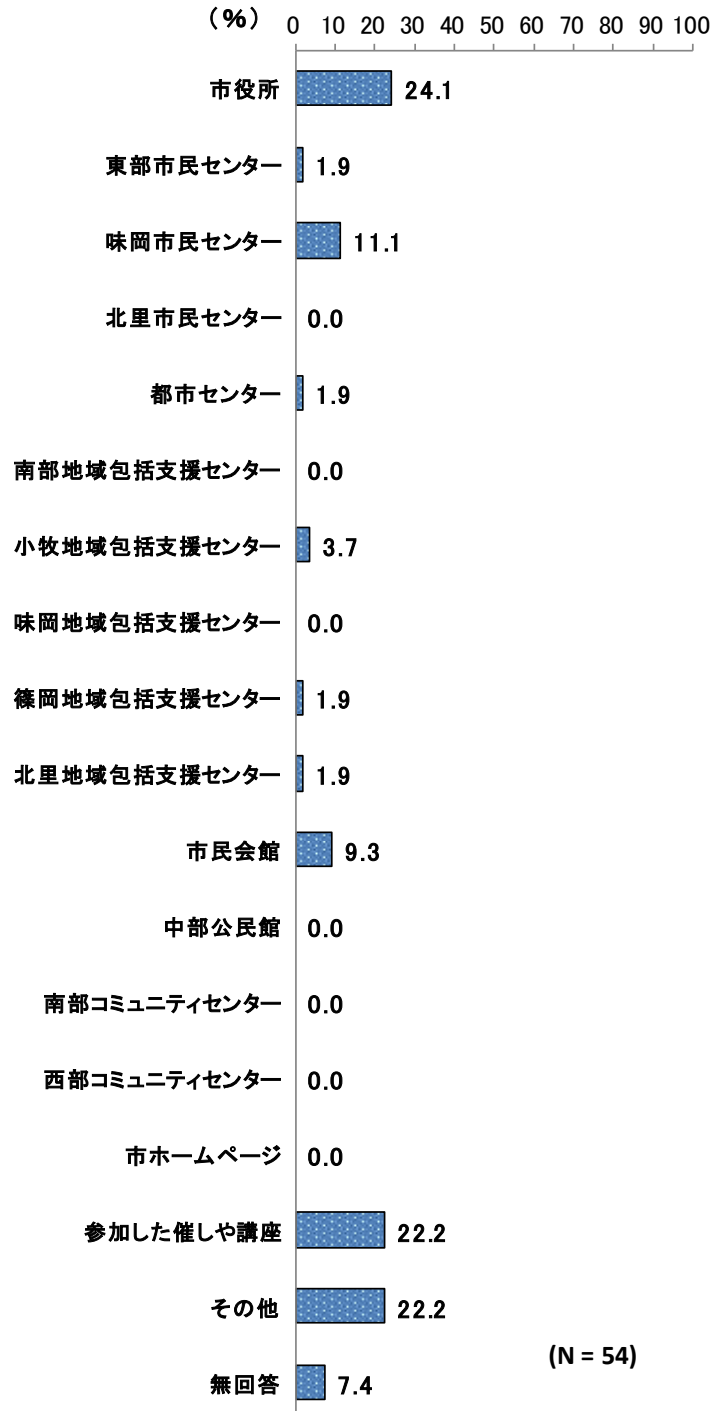
問22 わた史ノートの所持状況（複数回答）



※平成29年度より問21で1,2を回答された方のみ対象としております

わた史ノートの入手場所は、「市役所」(24.1%)が最も多く、次いで、「参加した催しや講座」(22.2%)の順となっています。

問 23 わた史ノートの入手場所



問 23. わた史ノートをどこで手にいれたか (その他の回答)

市の出前講座などの催し

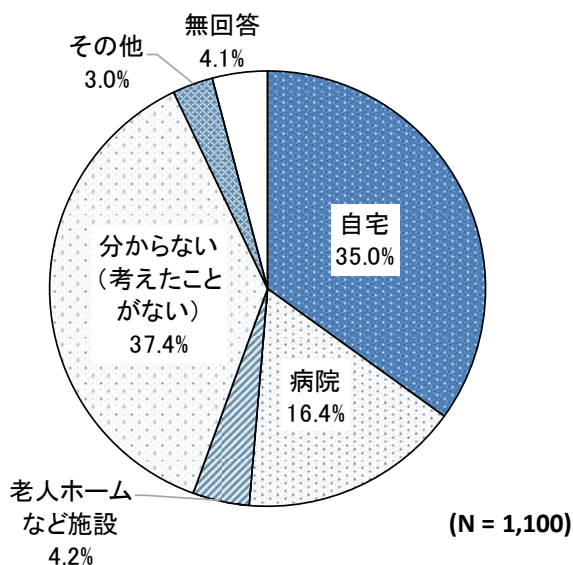
第2老人福祉センター

寿学園

ふれあいセンター

終末期を迎えたい場所は、「分からない（考えたことがない）」（37.4%）が最も多く、次いで「自宅」（35.0%）、「病院」（16.4%）の順となっています。

問 24 終末期を迎えたい場所



問 24. 終末期を迎えたい場所（その他の回答）
その時の状況（家族が支えてくれるか。誰もいないか。寝たきりであるか）により終末の迎え方が変わるので。自分の意志ばかりは通せないと思う。有るがままでいい
どこでも良い
家族に迷惑かけない所ならどこでもかまわない
特にない
自立した生活ができているなら自宅、難しいなら施設
家族に迷惑がかからない場所を選択したい。終末期を迎えた頃に考えたい
その時の状態ですが、延命を望まない
終末期の状況によって、自宅、病院、老人ホームかを選びたい
場所にはこだわらない。人に迷惑をかけずに死にたい
できれば人と毎日かかわりあう所で過ごしたい。発見されやすい所で生活したい
事故でなければどこでも良い
場所はどこでも良いが、どなたかが近くにいてもらえれば良い
自分がここだと思った場所
お世話をしてくださる方に任せる
自宅は無理だと思うが、家族の考えに従う
トイレ、入浴等身の周りが自分でできれば自宅。動けなくなったり持病悪化で失明したら施設。安楽死を希望するかもしれない
入院中に息を引き取るのがよいと思う。その方が身内の負担が少ないかもしれないと感じる
穏やかにいられる所

第4章

自由記載意見等の

取りまとめ

第4章 自由記載意見等の取りまとめ

問 25. 在宅医療・在宅介護に関するご意見やご要望

情報発信の要望

- 情報の発信を様々な手段でしてほしい。子ども、若者にだけ優しい小牧市ではなく、高齢者にも優しい街になってほしい。
- 今回のような内容について、様々な情報が得られるホームページがあると良い。
また、フローチャートの様な自分、家族が病になった時の対応方法を作成してほしい。
- 現在は何も考えられない。とりあえず健康なので…。しかし、情報は少しずつ分かるとありがたい。
- 在宅医療・在宅介護は急に現実になると思う。日頃からの心構えや情報があれば良いと思う。
- 市職員や医療職でなければ在宅について分からないし、自らあまり理解しようとしないう。家族が急に医療、介護が必要となり、焦り、十分な選択ができないまま進んでゆくケースが多いと思うので情報の発信だけでなく市民が受け取りやすい環境を整えてほしい。
- アンケートが届いた時は夫の在宅医療・在宅介護を利用中だった。その後投函する間に亡くなった。以前（この時要介護3だった。5年前になる）市民病院から地域包括支援センターを紹介された時は何も在宅関係は知識がなかったし、その時のケアマネジャーの説明は今思えば親切ではなかった。伝えてくる情報が少なすぎ、こういうものが利用できるとの説明がほぼなかった。
- 在宅医療・介護の内容は分からないが知りたいと思う。現在、主人ががんを発病して余命1年位と言われているのだが、本人が何も言わないし相談のしようがない。本人がどうしたいのか分からないため、もう少し様子を見ようと思っている。その時になったら地域包援支援センターに相談しようと思っている。（本人の考え）
- 在宅医療・在宅介護に関して、改めて認識不足を感じた。年齢とともに考えなくてはならないことだと考えさせられた。もっといろいろ調べて関心を持つようにしたいと思う。アンケートで回答したが、小牧市内でいろいろ取り組んでいる医療機関の名前が分からないので周知方法（すでに広報等で周知済みかもしれませんが）を考えてほしいと思う。
- 広報こまきなどで特集してほしい。
- 各地区の訪問診療が可能な医療機関を、回覧板で教えていただければありがたい。訪問看護はどのレベルまでできるのか。輸液は可能かなど。
- 自分のことより、近い将来起こるかもしれない両親の介護をどのようにしていくか根本的に分からないことばかり。土日などに説明会を開催し、小牧市で行っている取り組みの紹介などをして頂けるとうれしい。
- まだ身内にも在宅医療・在宅介護が必要になっていないが、なってから慌てる状態では困るため、情報収集はしたいと思う。
しかし、友人、知人から親の介護認定が厳しいとか、認知症を患っても施設内を走り回っている方とか、とても不安になる話ばかりを耳にする。
- 賃貸住まいのため、在宅で可能か分からない。しかし、そうなった場合のことを考え情報だけでも集めてみようかと思う。
- 在宅医療・在宅介護は親が元気であり、必要ではないためあまり詳しくは知らないが、これから必要となった時のために、随時セミナーや相談会など広報に力を入れてほしい。

相談窓口の周知・充実

- 自分はまだ一人で何でも出来ると思っていたが、近頃つまずいたり、角でぶつかったりする事が多くなり、年齢を感じる事が多くなり、物忘れもあり不安がある。誰に相談すれば良いか思案中。あまり外出はしたくなくなりお話ししたくない。
- 障害者のいる家庭は、日常的に在宅介護が必要となり、情報を得られず困っている人もいますので、定期的に市の方から相談してもらえると助かると思う。
- 86歳の夫と80歳の私の夫婦で、二人暮らし。今のところ、夫は少し認知機能の低下があると思う。こういう場合、どこに相談すればよいか分からない。みんな口コミできちんとした方法など分からない。どこで教えてもらえばいいのか、いつも不安である。

<ul style="list-style-type: none"> ○在宅医療・在宅介護を利用したいがどこに行ったらいいかわからない方が多い。施設、ヘルパー、デイサービス等を使えるのに介護保険の使い方、どこかに申請が必要等と初歩的な事から知らない方が多いと思う。相談窓口の PR、対象者がどういふ方かなど積極的に分かりやすい説明をもっとしていくべきである。 ○年齢や置かれている環境で（医療や介護に関しては）人それぞれ何が必要で何を知りたいかが違って来る。個別に相談できる場所、人の提供をお願いしたい。 ○多機関の連携が必要だが、主体はどこがするのか。相談の窓口になる連絡先は一つにしてもらうほうが分かりやすいと思う。 ○二人の子どもが近くに住んでいるが、どちらも共働きである。今は元気で生活できているが、体が不自由になったときのことを考えると相談先が分からず、不安である。 ○在宅医療・介護について、相談窓口に連絡したが、病院や地域包括支援センターなどに聞いてくださいと言われた。どうしていいかわからず、春日井に尋ねたが、小牧にお住まいなので小牧市で尋ねて対応してもらって下さいと言われた。 在宅医療・在宅介護の窓口には、知識を持ち、きちんと対応できる人を置いてほしい。子どもたちは色々医療費なども無料化され、年寄りはいつまでも払い続け負担が大きく病院もいけない人も何人かいる。かわいそうだ。みんないつかは年をとる、お年寄りも住みよい、小牧にしてほしい。 ○介護経験があるが、まったくないと不安だと思う。いざとなると声を出すことができないし、どこに声を掛けたらよいか分からない。男性の介護は声をあげにくいと思う。身近に気軽に聞けるエキスパートがいるとよい。寄り添ってほしい。
<p>在宅医療・在宅介護に関する冊子作成の要望</p> <ul style="list-style-type: none"> ○私自身ではないが、親が介護を必要とする時が来た時、どう対処してどこに相談したらよいか分からないので、とても不安がある。もっとそういう手順等の冊子などがあるとよいと思う。小牧市は子ども支援に力を入れているが、もっと老人のことにも力を入れてほしい。 ○在宅医療・在宅介護についての情報を聞く機会がほとんどないのでどんな状態の時に利用できるのか、誰でも利用できるのか、どういった病院が行っているのか、費用は、等の一般的な情報を 75 歳を超えたら分かりやすく書いた冊子等を配布してほしい。 ○在宅医療・在宅介護、地域包括支援センターなどの電話番号、内容などを書いたノートみたいなものを市が 1 冊にまとめて各家に 1 冊ほしい。 ○もう出来ているのかも知れないが、私達のようにまだ必要でない人のために、まず医療機関でこういう制度があると紹介してもらい、こうなったらこうなるという方向の指示的、マニュアル、ここに連絡をすると相談ができるといった道筋のパンフレットがあればいいかもと思う。 ○明確なイメージがわからないが、将来には不安がある。もっと具体的に時、状態、症状別など図解された説明書などがあると良いと思う。
<p>在宅医療・在宅介護の不安・要望</p> <ul style="list-style-type: none"> ○介護度に対してどのようなサービスが受けられるかが分からない。 ○今後、高齢化が進むと思うので、在宅医療・在宅介護サービスが、地域の住民に対して安心して利用できるように充実させてほしい。 ○今後、高齢化により在宅医療・在宅介護の利用、需要が高まる中で、それを支える側の制度、支援の整備をお願いしたい。現場（医療機関など）をサポートする側の体制を整えることからだと私は思う。現在、子どもが福祉サービスを受ける親の側の意見としては現場の方たちが困っているという話も聞いたりする。今の状況では、この先不安しかない。 ○容易に使えるなら在宅医療・在宅介護が望ましい。 ○在宅医療・在宅介護を希望するが、子どもが独立後の話になる。今の状況を考えると厳しい。介護は人手不足なので。 ○私は高齢などで在宅医療・在宅介護は大変に良いと思っている。 ○現在、母が介護施設に入っている。2016年6月から入っていて自分の仕事の転勤によって入る事になり、ずっと帰りたいたいと言って、2017年11月に仕事の転勤により戻ってきた。2017年10月に母が自分では立てなくなりそのまま施設に入っている。早めに在宅医療を詳しく知っていたらと後悔している。

- 未だに母は小牧の家に帰りたと言っているので、その言葉を聞くと辛くなる。1ヶ月に2回など戻ってきた時だけでも在宅介護が受けられる事などあれば良いと思っている。
- 介護に決まりがありすぎる等で使うのが難しいと嫌である。
- 自宅で、お風呂に入れてもらいたい。親切に話をきいてほしい。
- 在宅介護の場合、お風呂もお世話になると思うが、女性の方が良いので希望する。いくら年をとってもやはり男性のスタッフの方は…。
- 在宅介護といっても、土日祝日の対応はしていないところが多い。
- 高齢者が増え、病院は高齢者でいっぱいである。医療費の面でも心配である。予防に力を入れてほしいし、病院に行かなくても良い生活習慣をもっと広めてほしい。少しの支援が必要な人は、サービスが受けられず、家族の負担になっているケースも多いと思う。軽度の認知症でも、安心して家族が働きに行けるようになると良いと思う。
- 支援体制づくりは大切だが各家庭にどれくらい知られていたり、伝わっているかが問題。民生委員などが個人の家を回り、情報を伝えてくれるわけでもなく、本当に困っている時は外からの声掛けが一番大切と考えている。
- 医療や介護を必要とする本人に対する支援が欠けている気がする。現在は本人のまわりの人による介護が必須になっている。本人から申し立てができなくても、福祉とつながれるとありがたい。
- 数年前、祖父の在宅介護を経験した。最期を自宅で過ごし、とても満足でした。小牧市も制度が整ってきていることを実感した。日常生活において、まだ、要介護者が身近にいない方にとっては、将来を不安に思うこともあるかと思うが、現実が目の前にやってきた時に、小牧はいろいろ整っているのではないかと思う。
- 現役世代が少なくなっていく中で、医療、介護に関しても、専門化、分業化を進め、無駄の少ない仕組みづくりが必要だと思う。
- 今後、消費税増税も進む中、子育て、老後問題を支援できるシステム、人の育成、設備を充実させてほしい。
- 二人暮らしの両親だが、父が認知症を患い、要支援1になった。この先よくなることはなく、仕事のため、母のフォローができるわけでもなく、母も私も不安になる時がある。介護者、病人本人も安心できる制度の充実も望む。
- 小牧市は介護認定が厳しいと聞く。病院の看護師も言っていた。本当に必要としている人もいるのに、この人がこれで要介護？と言う人もいるし、こんなにひどいのに要支援しかもらえない人もいる。きちんと認定してほしい。
- 対象となる者と別の自治体に住んでいる場合、そちらの市町村に何度も行くことになったりすると思う。そういう場合に他の市町村と連携できていると少しは助かるかなと思う。
- 現在、眼科、歯科以外の医療機関を利用していないので、在宅医療・在宅介護について特に意見、要望はない。
- 家族と同居している。その時の状態で変わると思う。在宅医療・在宅介護は、無理だと思う。設問について、主治医に聞かないといけない点があった。次回受診時に聞く。
- 在宅医療・在宅介護は、私自身は望んでいない。在宅だと、家族の負担が多くなるので、入院施設を、小牧市民のために多く確保していただくよう考慮してほしい。
- 私も年金から介護保険も支払っているし、これから更に高齢者が増え、一人ではなく二人、三人と在宅介護をしなければならない時代になる前に、国が、いや小牧市長がもっと高齢者問題をどうすべきかを考えていただきたく思う。私は老い先短い90歳代。私は子どもがよくみてしてくれるため、定年前に会社を退職してくれた。私は本当に幸せ者だが、小牧市民の中には困っている方も多いのではないか。
- 金額的、心身的ともに負担が相当かかると思うと、いいイメージはない。

費用への不安・要望

- 介護施設の場所、利用料金を知りたい。どの段階になったら入れるのか分からないので、不安だらけで、この歳で母より私が介護されるのかなど心配である。運転ができなくなったらタクシーの利用を安く（免除）してほしい。
- まだ介護の経験がないので、どんな制度があって、どのくらいの費用や方法で利用できるか、全く知らない。でも遠くない将来、必ず関わることなので、もっと広報こまきで小牧市で使えるものをアピールしてほしい。
- 在宅医療・在宅介護は、お金がかかる。
- 医療や施設は費用の負担が大きい。不安のない社会保障制度が確立していると思う。
- 在宅医療・在宅介護が出来る人はどのくらいいるのか。きちんと医療・介護の方に面倒をみてもらえるのか、不安。お金がどのくらいかかるのか。子どもが遠方にいるので、すぐに見てもらおう人がいない。
- 在宅医療・在宅介護も大切だが、元気で生きていくことで精一杯である。老後の貯蓄はない。
- 費用がかからず、誰でも在宅医療・在宅介護が受けられると良い。
- 子ども達が独立し、それぞれ家庭を持ち、現在一人暮らしのため、在宅医療・在宅介護が望ましいが、子どもへの負担、費用が気になる。一人暮らしでも在宅医療・在宅介護が可能なのか。それとも、これからは入りたくても施設に入れられないため、在宅医療・在宅介護をせざるをえない時代になるのか。
- 働きながら介護をしていて、ショートステイを利用しているが、私自身の家族との生活もあり、仕事を辞めることもできない。このままショートステイを利用していくと費用負担が大きい。グループホーム、特養の空きもなく困っている。しかし、今現在、ショートステイが利用できる事で助かっている。介護する世帯にも何か負担軽減される制度があればありがたい。
- お金さえあれば、どんな医療行為も受けられるが、無い者はどうするのか。年金も怪しい、働きたくても、働けない。これでは長生きするだけ苦しいだけではないか。
- 在宅介護は、保険で費用が賄えるのか。ベッドを借りるといくらか。どのような状態になったら、ベッドを借りられるか。ベッドはどこで借りられるのか。歩くのが不自由な時はどのような備品を、借りられるのか。車いすを借りると費用はどれくらいか。
- 終末期の経済状況（お金）などを考えると、とても不安。
在宅医療・在宅介護問題も、やはりお金の問題になる。今の年金では無理。長生きすると、世の中、苦しむだけのような気持ちになる。
- お金があれば出来ること。現状では無理。
- 入院費など、経済的負担。在宅が必要となった時、即対応していただけるか。
- 自分が病院に行くより来てもらうほうが楽だが、負担金が高くないか心配。
- 一番気にかかることは、やはり費用。
- 金銭的な問題は必ず出てくる。誰がどの程度の負担をするのか。税金は市民全員のものなので公平に使うべき。本当に必要な人間に必要な分を与える方策を考えてほしい。今の老人ばかりが良い目を見るのはいい加減にしてほしい。
- 夫婦二人の生活、親族は近くにいない。年金だけでは生活困難となることが考えられるため、70歳を過ぎても80歳過ぎても働かなくてはならない可能性がある。費用面が心配。
- 家族への負担が大きく、経済的にも肉体的にも精神的にも全員が崩壊する。金持ちだけが出来る事。小牧に住んでより強く感じる様になった。小牧は働くところであって安心して住むところではない。市政を見ていると特に感じる。

医療・病院への不安・要望

- 市民病院から紹介された在宅医療・在宅介護の事業所は丁寧でよかったが、診療所の医師は、死亡確認書類の作成のみの関係で終わってしまった。家族へのフォローもほしかった。診療の点数にはならないかもしれないが、残された家族へのフォローもあると良いと感じる。在宅は本人や家族に寄り添うものであってほしい。
- 在宅医療・在宅介護、ともに高齢者のために設けられた制度ではなく、医療会計、介護保険など、費用面を考慮して設けられただけと考える。老人ホームも含め、死亡時に必ず医師が立ち会うというのは無理であり、現実には死後半日以上経過してから医師による死亡判定が行われるケースも多い。また、高齢者というだけで、通常の医療行為もせずに看取りと称し、死に至ることも稀れではない。実際、義父が老人ホームで1週間も食事がとれず、医師も、施設の職員から、このまま、看取りましょう、といわれ、父の症状を見て、これは単なる貧血によるものだと判断し、救急車で病院へ搬送し点滴をただけで、数日後、歩行ができるまで回復したことがあった。全く医学知識のない家族であった場合、高齢だというだけの理由で医療が中断されることが多い。在宅医療を行っている医師のレベルの低さとともに、厚労省の方針により在宅医療、老人ホームでの終末医療は、国民からの真の信頼を得ることは難しいと考える。ただ、病院側の強制的な退院により成立している制度でしかない。
- 少子高齢化の時代、在宅医療はもっと必要になってくると思う。小牧市でも、そういった医療機関を増やしてもらって、住みやすいまちにしていってほしい。
- 6年前に妻が肺がんになったが、市民病院で、肺の中のがん細胞を取っていく過程で、医療による出血が多く、先生が断念したと先生に聞かされた（医療ミス）。それから体調が悪化し、半年後、死亡した。亡くなるまでの1ヶ月間、在宅医療、訪問介護を受け、すごく助かったが、問診だけで、アドバイスはなかったので残念だった。
- 以前、義父が救急手配したら、小牧市民病院が受け入れできず、大口の病院に搬送された。普段は、自宅に近い医療機関を利用するが、万一の場合、小牧市民なので、小牧市民病院を希望する。
- 医療に関する相談窓口は親切、優しさをモットーに相談者に接していただきたい。
- 上新町に住んでいる。以前は近くに診療所があったが、今はなくなり、不便である。
- 小牧市民病院の緊急医療対応が遅い。4時間待っても処置できないなんてありえない。
- 小牧市民病院のあり方に疑問も感じている。
- 救急の電話対応の言葉、態度の評判が非常に悪い話をよく耳にする。
- 新しくなった市民病院がとても時間がかかるようになったので不満。
先日、庭で転び、頭をけがしたため、市民病院に電話したところ、来ていただいても何時間かかるか分かりませんと言われた。とても残念である。小牧市民病院はどうなっているのか。幸いなことに勝川のクリニックを教えてもらい、すぐ治療してもらい回復することができた。大量の出血でも診察していただいけませんでした。市民の病院ではないのか。
- 市税が高いわりに医療が悪い。特に市民病院に行けない。近くても他の医者へ。
- 小牧市民病院の駐車場が分からないので利用しにくい。利用しやすいように案内板をもっと充実してほしい。

介護士・医師等の人材の充実

- 在宅医療と言われているが、スタッフが不足していると思う。
少しでも病状変化があった場合、対応しきれないとなり、現状では、不安を感じる。
- 在宅医療・在宅介護の病院、人員が多くなると良い。
- 在宅医療・在宅介護について、病状が急変した場合、すぐ来てもらえるのか。医師、看護師等への連絡方法が無い場合はどうなるのか。中には医師が天命だから諦めなさいと言う場合や、いい加減にしか診てくれない医師もいると思う。高い税金、介護保険料を取り病気で動けなくなっても本当に来てくれるのか大変不安である。
- 在宅医療を支える働き手の数が気になる。高齢化社会が進んでいる中、在宅医療・在宅介護を希望する者、全てを受け入れることができるのか。全てを受けることができたとして、患者や家族の負担の希望にどこまで対応することができるのか、働き手不足も進んでいるので数十年先を見据えどのような対策をしていくのか気になる。

- できれば在宅医療を受けたいと思う。ただ、医者や介護士、看護師の絶対数が足りない。
- 医師が足りない。介護士が足りない。
- 人手不足の介護業界で、資格を持っていて使っていない人もいる。たくさん介護施設があって働く人が少ない現状もある。人材の確保が求められていると思う。キツイ仕事なので若い人が全然続かない。
- 医療従事者の多忙・介護士の収入。この2件が解決されなければならない。
- 信頼できる医師に会ったことがないので、何も期待していないし、考えてもいない。
- 介護の質の向上（一人一人の人間性）も望む。回数をこなすだけでなく、愛情のある介護を望む。重労働のわりに賃金が安いことも問題。
- ますます高齢化する社会の中心、在宅医療・在宅介護を希望しても、受け入れ機関が見つからないのではとの懸念が強い。特に在宅医療・在宅介護に従事してもらえる「人」も限られてくる（少なくなる）のではと心配している。もっとそれらに従事する「人」の環境を良くするための施策を望みたいと考えている。

将来（終末期）への不安

- 今後の課題は、自宅の環境の不備、家族の負担、費用。三つの漠然とした不安があり、きちんと調べたり、考えたりしたことがない。
- バリアフリーでない自宅で、医療も介護も無理。
- 妻と二人暮らしで、共に高齢者であるため、将来のことは分からない。
- 二人暮らしで、70代ですが、今のところ、介護はいらないが、今後を心配している。アンケートに目を通したが、いざとなると、きっと迷うことになりそう。
- 現在、介護は必要ないが、年齢的に転倒したり、病にかかるとも思う。息子は朝早く出勤、夜遅く帰り、子どもの入学、卒業式にも出られないような、休日もとれない職場で、我々が倒れたりした時、どうなるか不安。
- 私は子供がいらない。80歳を前にして、自宅での在宅医療も介護も無理だと思う。不安です。
- 一人暮らしになったら在宅医療・在宅介護を希望していても終末期には施設か病院になるのかなと思う。
- 人生の最終段階（終末期）は、自分としては長年住みなれた自宅が一番の望みではあるが、子ども達にとっては大変であり、難しい事だと思う。
- 終末期について、子どもたちとの折り合いを考えると答えが出ない。自宅と思っても、子どもは帰ってこないの、在宅介護となると、（バリアフリー）費用のことで不安である。自分が動けるうちには考えている。考えられるうちに家族で話したい。
- 母の介護は、夫婦が元気であれば、終末期についても、どのような形で対応できると思う。自分の終末期について、一人暮らしで老いている場合、在宅は無理と思う。

公的サービスについて

- 私は外科的手術を受けて約半年になる。そのため、初めて地域包括支援センターにお世話になっている。とても親切に気持ちよく接してくださり、感謝している。ただ、悲しいことに実生活は最低の動作はできているものの、足の爪だけがどうしても切れなくて困っている。地域包括支援センターの方からは、デイサービスを利用すれば、入浴後に切っただけとのことだが、現在は受けていなく、不便を感じている。そんな時、支援を受けている者に対して定期的にでも月に1回程度でも、訪問（自宅へ）していただき、お願いをできるととてもありがたいのだが。
- 在宅医療で一人暮らしの場合、セコムのCMのような、緊急の知らせをすれば対処していただけるシステム等は、小牧はあるのか。
- もうすぐ2人共70歳になる。今は元気ですが、何かの時はよろしくお願ひしたい。巡回バスは、たまに利用している。
- 自宅で迎えたいが、孤独死は寂しすぎる。つながる安心感がほしい。外出する機会やおしゃべりをし、情報（孤独も嫌だ）交換が気軽にできる場所がほしい。
- 現在は車が運転できるので、コーヒー店、スーパー、コンビニ等へ行けるが、これができなくなると大変になる。お互いに知り合いの和をもって行動できるサークルや助け合いの場所を市として作ってほしいと思う。

- 私の父（80歳）が脳梗塞、脳内出血でERに搬送され、小牧市民病院で2週間ほどになる。私も母も運転ができず、交通手段で困っている。巡回バスは、行きは良いが、面会後の午後8時以降のバスがなく、タクシー代がかさむ。市民病院は急性期病院なので、もうすぐ出されるし、リハビリのため、転院する先（済衆館病院〈北名古屋市〉）は交通手段がきたバス（北名古屋市コミュニティバス）のみである。私の住む所からは乗り継ぎ（こまき巡回バス）ができれば良いのだが。もっと自治体のコミュニティバス（巡回バス）が協力して乗り継ぎができ、病院と自宅の往來が楽になると助かる。家族の見舞いの度にタクシー代が負担。病院の駐車場を確保するための早朝からの見舞いは負担。もっと患者、家族ファーストをお願いしたい。
- 高齢者より子供、若者、働き盛りの年代が暮らしやすくなるようにしてほしい。
- これらのアンケートをとる前に、窓口対応職員全員に認知症サポーターの研修を受けさせて、オレンジリングを示してほしい。
- 子どもが少なくなり、病気になった時に付き添いなどの立ち合いなどが困難になっている。
- 自分の両親は施設に入所し、最期は病院で迎えた。2年前にがんが見つかり、かなり大きな手術や抗がん治療をして、改めて病気をした時の不安や不自由さを感じた。年をとってからのいろいろな事務手続きや大変なことを簡素化したり、市役所での手続きなど、遠くてなかなか行けないので、近くの所でできるとありがたいと思う。福祉への手厚い働きかけをお願いしたい。
- 低収入の人には利用できない制度。本当に困った人にも使える制度にするために、市税を大切に使うてほしい。
- 一人暮らし高齢者の悲劇が社会問題となっており、行政対応を強く、広く期待する。桃花台地区は、陸の孤島と言われているので、不安を一掃するよう、対策を進めてほしい。
- 最近、父母を亡くした。共に85歳でした。本人たちは最後まで介護されることのない一生であった。本人たちも生前によく介護もされないのに保険料ばかり払うのは変だと言っていた。実際、元気な人は介護保険料の支払いは矛盾しているのではないか。そういう状態になった人については支払うのは当たり前と思うが、介護が必要でない場合はどうなのか。本人たちは、真面目に支払ったが、お世話になることもなく亡くなった。

施設の充実

- 在宅医療・在宅介護だけでなく、在宅でなく病院でもなく、医療・介護を受けられる施設があると良い。
- 在宅では限界がある。施設の充実も、金銭的に限界もあると思うが、高齢高所得者からの支援及び年金辞退を促してはどうか。
- 介護施設の充実をお願いしたい。誰もがそれぞれに自分の人生を持っている。悲しい事だがいつかは体の自由がなくなり、一人で暮らせない状況になる。そんな時、24時間介護しなければならぬのが家族しかいないことは、あまりにも大変である。もちろんショートステイ、デイサービス、ヘルパーがあることは知っているが、その協力を得られない時間、家族に負担がかかっていく。皆、遊んでいる訳ではない。それぞれに役割を持ち、夜くらいゆっくり眠りたい。当たり前である。
- 在宅医療・在宅介護には限界があると思う。医療・介護の施設の充実をお願いしたい。
- 在宅での介護は家族に負担をかけるので、できればすぐに施設に入りたいと思っている。施設の充実にも力をいれてもらえると嬉しい。でも、小牧市の在宅医療・在宅介護についての取り組みを知ることができ、ありがたいと思った。子どもたちが独立し、一人暮らしになった時に、そのありがたみを感じると思う。
- 在宅において、延命治療は一切せず、痛みなど無くしてもらえそうな最期を迎えられたらと思うが、家族に負担をかけることになるので、なるべく自然な看取りがしてもらえるような施設があったらよいと思っている。
- 夫婦が一緒にお世話になれる施設があると良い。
- 今は妻だけに介護を任せているが、妻も病気がちになってきたので、もっとリハビリをしてもらえる施設があるといい。
- 現在はまだ介護に直面していないのでよく分からないが、あまり家族に迷惑をかけなくて済むように、施設の充実をお願いしたい。

○今後、在宅介護が受けられるか心配。施設を希望した時、入れるのだろうか。出来る限り元気でピンピンコロリを目指したいと思っているが、介護・医療とは関わらなくて良い最期を望んでいる。

アンケートについて

- 地域包括ケアシステムは、住まい・医療・介護・予防・生活支援の一体的な提供を、どう構築するかが課題であるため、その支援体制づくりのためのアンケートが望ましいと考える。
- 在宅医療・在宅介護は、それに関わる者（家族）、学校であったり、会社（職場）を支援する制度が充実していかないと成り立っていかないのではないかと思う。
- 年齢的に、まだ動いているので医療や介護にピンときていない。でも、近い将来、必ず直面する事だと思う。その時にならないと何が必要なのか、何が不安なのか、その時にならないと出てこないと思う。
- 現在 84 歳であるが、現役(9 時～18 時)で働けており、アンケートを見て、これはいけなと感じたので、相談に伺いたい。
- 今回のアンケートは、在宅医療・在宅介護の認知度と意識調査と受け止めている。
- 自分自身が健康であり、あまり先のことは考えた事がない。ただ、8 年ほど前に主人をがんて亡くしているので(当時は安城市に在住)自分の最期は少し不安もある。このアンケートを頂いたおかげで小牧市の取り組みが分かった。期待している。
- 現在退職し、福祉関係の仕事、あるいはお手伝いが出来ることを考えている。今回このようなアンケートが来て解答するにあたり基本的なこの地域で行われていることを全く知らないことが分かった。基本的なことの勉強会みたいな事を広報等で取り扱って頂けたらと思う。なお、明日 6/30 小牧での介護展があると広報にあったので参加し、知識を広げたいと思う
- このアンケートがデータ化されたところで、一つ一つのケースが明確化されるのだろうか。誰の視点、誰の本意、ネットを活用したアンケートは、印刷・切手・用紙代より電子化の方が高いのか。椅子に座っているだけでは市民はついていけない。
- まだまだ先のことだと思っても、こういう書類（アンケート）が送られてくると何だか不安になるのはなぜだろうか。考えたことが無かったため、アンケートに戸惑っている。
- よいアンケートと思う。終末期医療について市が取り組んでくれると嬉しい。
- たくさんのアンケートに答えさせて頂いたが、何でも自宅でということが 1 番だが、その時の状態によってかなわないことが起きてしまいがちである。

家族の介護・負担・不安

- 親のことで、少し不安があるので地域包括支援センターに相談を始めたところである。親の自宅がごみ屋敷になっているが、片付けさせてくれない。要介護認定は出なかったが、本人が受け付けなくて困っている。どんな支援も本人が拒否しては手の打ちようがない。
- 自分のことは自分でできるかどうかは要支援の判断基準だと思うが、介護にならないために、できることは出来る限りするようにしている。しかし、若い者がやるようにはできず、洗いや物のすすぎ直し、洗濯物の干し直し、介護者のプライドを保ちながら、陰ながら見守り支援しているが、認定調査で「できるね～」と判断されても困る。“料理する”と言っても、食べられるものではない時、本人の目の前でどこまでお話ししていいのか、気も使う。昔から思っていたが、見た目は大丈夫それでも支援を必要とする人はいると思うので、そうした人も通える健康づくり的なデイサービスもあるとよいと思う。
- 実家の兄嫁が自転車で転び、1 年半前に手術し、リハビリの後、結局、車いす生活になり、その間 90 歳近い兄が看護をしていたので、私たち夫婦も、兄が倒れたらと思い、何回か訪ねた。今では、地域包括支援センターのおかげで、デイサービス、入浴等のサービスを受けながら何とか暮らしている。兄夫婦を見て私たちも、もしその状況になった場合のことを考えると、近所付き合い、また、健康に注意し、無理のない生活をしていかなければと思う。人生の終末期になったら、余分な治療はしないで、楽に人生を閉じたいと思う。家族に迷惑はかけたくない。
- 在宅医療は良いが、家族に対する負担を少しでも軽度となるよう考慮したい。
- 在宅医療と言うが、家の状態など色々あり、難しいと思う。
- 家族に負担をかけたくないなので在宅は希望しない。

- 父の在宅介護を母が3年間位しており、週一程度リハビリ、歯科衛生士など来ていただいていた。その時に市役所、ケアマネジャーなどに色々教えて頂いた。もう15年も前の事である。自分の事となるとまだ実感がわかないが、子ども達になるべく迷惑をかけたくないと思うのが一番である。なるべく行政の支援に頼りたいと思っている。
- 在宅医療は家族に負担がかかる。
- 在宅医療・介護は自宅で協力のできる家族が居て成り立つが、現状では家族や家庭をもたないシングルの人が多く難しいと思う。私もシングルで親を施設入所させ、見てもらっているが、何度も在宅介護について施設の職員からおススメがあったが、自宅に誰も居ない日中独居で介護度の高い親を居させるのは全く無理な事である。
- 母を在宅医療の末、自宅で看取った。家族、姉妹で母を見送り、在宅医療、訪問介護の在り方、医師との関わり方など多くを学ぶことができた。家族がいかに重要かを学んだ。自分自身に置き替えて考えるとまだまだ先の話なのか、それとも、ある日突然死と向き合うことになるのか等色々と考えたりするが、夫婦二人生活となった今の健康のこと、老後の過ごし方、家族との連絡など独居にならないよう、また、しないようにと心掛けるようにしている。母が家族に看取られたように自身もそうなればいいなと思ったり、わた史ノートに書き込んだりしている。
- 理想は在宅医療・在宅介護は良いと思うが、一番は家族の負担だと思う。無理はよくないし、それを介護する家庭を立派だとし、施設に入れることで、手を抜いていると言われ、非難されるようでは良くない。
- 自宅を介護・看護できるように整えることも、大変な作業ではと思う。痛みや苦しみをとっていただきながら、眠るように天国に行けたらよいなあと時々、想像する。
- 現在、父ががんと分かり、施設に世話になりつつ、緩和ケアで過ごしていく予定である。今回、看取りまでやっていただける施設が見つかり、ケアマネジャーがいろいろ動いてくださり助かった。在宅医療が希望でも、家族や周りの方の協力がなくて難しいことが多いし、それなりの心の負担が（本人と家族）長期化したらと考えると相当のものになると思う。
- 在宅介護を20年してきた。現在も実の親をみている。義父を10年、在宅医療の先生、看護師の方々にとてもよくしていただき、最後まで在宅で看取った。しかし、在宅で看取りをしたくても家族が出来なければ無理だと思うので自分の時は病院でと考えている。
- 私も、10年程、両親の介護に関わった。90歳以上で亡くなる方が多い今、介護する側も高齢になり、兄弟や1～2人の子どももあてにできない。経験上、在宅医療・在宅介護は、短期間ならともかく、年単位では無理だと思う。
- 同居する家族の負担を減らすシステムをより一層考えて下さるとありがたい。独居の場合は細かな事もサポートする必要が出てくる。
- 主人を1年前に亡くし、在宅介護をした。良かったと思っている。
- 在宅介護は高齢者の世帯では実現が難しいように思う。家族の中で自立できている人が居る時は良いがもう老老介護状態になった場合、どうなるだろうと心配している。
- 現在、義母が施設で世話になっている。本人の症状（認知症、歩行困難）や自宅の設備、私自身仕事もしており在宅での介護は難しいと考える。
- ヘルパーより家族（親族）にみてもらいたいと思う。
- 在宅を考えると家族が仕事をセーブ又は退職しないといけなくなるのではと考えてしまう。
- 在宅介護を望むが、介護者の負担が多くなり、老老介護は不可能。
- 夫婦と子の3人の中で、いつ誰が介護生活になるか分からないので、される立場、する立場になってみないと分からない。いろいろな立場の方が家に入り出されるのも、落ち着かない気もする。
- 現在、夫の看護をしているが、万一、対応できなくなった場合、大変なことになると思う。
- 母を自宅で最期まで介護していた。市民病院からの流れで訪問看護等いろいろ紹介してもらい、助かった。ただ、自分が最期の時、自宅が良いと思うが、家族の負担を考えるとそれを選べない気がする。経済的な事もだが、精神的に（介護する側の）。その辺りをフォローしてもらえると良いと思う。家族の多い所は良いが、一人の場合、勧めないことも必要かと思う。個人的に小牧市の福祉行政には満足している。
- 家族の負担が一番気がかり。

- まだ 50 歳になったばかりで、自身のこの先の不安は漠然としている。ただ、親がこの先どうなるか、不安と心配は頭にある。同居しているわけではないため、在宅となるともっと不安である。また、金銭もとても不安である。
- 今年 5 月、母を亡くした。5 年ほど前からアルツハイマー型認知症になり、4 年間は在宅介護で頑張ったが、限界。亡くなる前の 1 年は、施設、病院、施設、病院と移り、最期は老人ホームでした。在宅介護はものすごく大変である。それが現実である。
- 家族に負担をかけたくない。

その他

- 三世同居であった私は、平成 30 年 1 月に義母を看取った。結婚当初より同居で介護は覚悟していた。覚悟という意味からすれば、責任や負担がのしかかりとても重い気持ちで考えていた。でも違っていた。孤立してしまう環境の中で親身になってくれたケアマネジャー、デイサービス、地域包括支援センターの方々、会議の時の市役所の方、看護師そして親族の支えとこんなにも多くの方に関わって介護することができた。かかりつけ医の先生は、家族皆の健康も気遣ってくれ認知症の対応や言葉遣いも教えてくれた。亡くなった義母が前日（死亡する夜）夕食もごく普通に食し、毛布をかけた後、温かいと子どものように笑顔でおやすみと言ってくれ、次の日、最期となったことはとても信じられなかったが悔いなく看取れ義母も私も感謝している。
- 在宅医療と訪問診療の違いがよく理解出来ない。
- 小牧市外だが、親のことが在宅医療・在宅介護について話を伺い、対応していただいたが、長期ではなかったため、迷惑をかけることはなかった。身体の調子が悪くてケアのための再入院ができないということを実感した。介護をしていただくのはありがたい事なのだが、購入すべきことなど、決まりがあり、個々に考えていただけなかったので不信感が残った。市役所の方々、病院の方々、色々な事情はあると思うが、押し付けられるような事は個人として良い事でも不信感が残らなかった。
- 息子を 6 年前にがんで亡くした。最期は、在宅での話を進めている中で、病院で最期を迎えた。皆さん本当に手助けしていただき、感謝の気持ちでいっぱいである。
- 現在三世同居で日常から家族が協力し合っているのでも、今のところ在宅医療・在宅介護に直面していないこともあり、幸いにも余り考えていない。小牧市内の高齢化率が急上昇するのは自分も含めて心配。行政だけに頼らず自己管理したいと思っている。
- 今は元気なので、あまり考えなかったが全て考え直して生活する。在宅医療・在宅介護の必要を重く受け止め毎日を過ごしていく。安心の老後を望む。
- 夫婦二人の時は、片方が片方を見られると思うが残った一人の時、自宅だと無理かなと思う。子どもたちは離れて生活していると在宅医療・在宅介護をしてもらっていてヘルパーが訪問した時に亡くなっているのを知るケースがある。UR の団地内で仕事をしていて独居の方々によく遭遇するので。
- 安楽死という終わり方もいいのではないかと。(立法してはどうかと思う)
- まだ子育てまっさかり世代である。ピンとこない。もう少し上の世代を対象にしてもいいと思う。関係ない事だが、なり手が少ないと思うので給料面で UP してあげてほしい。
- まだ身近に感じられないが、身近に感じられるようになったら、切実な問題だと思う。
- 父親が約 10 ヶ月ほど在宅介護だったが、本当に優秀な病人で何をしても“ありがとう”の言葉で頭の下がる思いだった。最期も自宅で息を引き取った。(90才)
- いつも小牧市民の幸せづくりのために職員の皆様にはご活躍いただき感謝している。
- まだ、先の話だと思い、考えたことはない。時が来たら慌てると思う。
- 近所の目が気になる。
- 後 7～10 年経つと、近所の人も環境が変わり、空家が増えると思う。
- 医療機関にかかっていない方へは、保険料の負担を軽くすべき。
- どちらかということ、お金のある小牧市。図書館も道路もほどほどに、医療・介護の分野を充実・拡大してほしい。難しいのは分かるが、桃花台は、忘れられた姥捨て山状態ではないか。春日井市の方に、学校も仕事も買い物も病院も足が向く。すごく損をしている。一人暮らしの者にもやさしく願いたい。

- 人は生きている限り必ず老いはやってくる。在宅、病院、施設それぞれ良さがある。これからはいろいろな選択肢、そして制度が進み安心して老後が迎えられる社会になってほしい。
- まだ考える機会が無いのでよく分からない。また折に触れ家族で話題にしていく。
- もう両親は他界し、私自身のこととして考えてみたが、やはり無理だと思う。

資料編

在宅医療・介護連携に関するアンケート調査へのご協力について

皆さまには、日ごろから本市福祉行政にご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

本市においては、高齢化率が23%を超え、超高齢社会に突入しており、2025年(平成37年)には推計で25%を超える見込みです。こうした中、市民の皆様が、可能な限り住み慣れた地域・家庭で自分らしく暮らすことができるよう、在宅医療・在宅介護の支援体制づくりに取り組んでいます。

このアンケートは、40歳以上の小牧市民2,000人の方を無作為抽出して送付させていただいており、在宅医療・在宅介護に関する事柄について、市民の皆さまに、どの程度知られているか、また、どのようなイメージを持たれているのかを調査し、今後の在宅医療・在宅介護の支援体制づくりの参考とさせていただきます。調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

平成30年7月

小牧市長 山下 史守朗

《アンケートのご記入にあたって》

1. 無記名のアンケートです。お名前を書いていただく必要はありません。
2. 回答は番号で囲んでください。なお、回答の中で「その他」を選択された場合は、お手数ですが()の中に具体的な内容を記入してください。
3. 回答は原則としてご本人が記入してください。もし、ご本人が記入できない場合は、ご家族や代理の方がご本人のお考えを聞き、ご記入ください。
4. ご記入後は、同封の返信用封筒に入れて、平成30年8月10日(金)までに切手を貼らずにポストに投函してください。
5. 個人情報の取り扱いについて
回答内容はそのまま公開されることはなく、調査結果は上記目的以外に使用することはありません。

《お問い合わせ》

小牧市役所 健康福祉部 地域包括ケア推進課
電話：0568-76-1188(直通)
FAX：0568-75-5714

在宅医療・介護連携に関するアンケート調査

回答にあたり、あてはまる番号を選び、その番号を○で囲んでください。「その他」を選択された場合は、()内に具体的な内容をご記入ください。

I あなたご自身について

問1. あなたの性別・年齢をお答えください。(それぞれ1つに○)

性別	1. 男性	2. 女性			
年齢	1. 40代	2. 50代	3. 60代	4. 70代	5. 80歳以上

※年齢は、平成30年7月1日時点でお答えください。

問2. あなたの家族構成をお答えください。(1つに○)

1. ひとり暮らし	2. 夫婦のみ	3. 子世代と同居
4. 親世代と同居	5. 三世帯世帯(親・子・孫)	6. その他()

問3. あなたのお住まいの地区をお答えください。(1つに○)

1. 小牧南部地区	2. 小牧中部地区	3. 小牧西部地区
4. 味岡地区	5. 篠岡地区	6. 北里地区
7. わからない(町名等をお書きください)		

問4. 現在、定期的に治療を必要とする病気等がありますか。(1つに○)

1. ある	2. ない
-------	-------

問5. 医療や介護に関して、現在不安を感じていることはありますか。

(該当するものすべてに○)

1. 自分や家族の健康・病気のこと	4. 高齢者を支える社会保障制度のこと
2. 自分や家族に介護が必要になったときのこと	
3. 医療・介護の費用のこと	
5. その他()	
6. 不安はない	

Ⅱ かかりつけ医について

問6-1. あなたには日ごろから健康状態や病気のことを相談できる身近な「かかりつけ医」がいますか。(1つに○)

- | | |
|---------------|--------|
| 1. かかりつけ医がいる | ⇒問6-2へ |
| 2. かかりつけ医はいない | ⇒問6-3へ |
| 3. わからない | ⇒問7へ |

問6-2. 問6-1で「1. かかりつけ医がいる」と回答された方のみお答えください。

あなたのかかりつけ医のいる医療機関はどちらですか。

(かかりつけ医が複数いる場合は該当するものすべてに○)

- | | |
|-------------------------------------|------|
| 1. 市内の診療所 (小牧市民病院、小牧第一病院以外の市内の医療機関) | ⇒問7へ |
| 2. 市外の診療所 | |
| 3. 市内の病院 (小牧市民病院) | |
| 4. 市内の病院 (小牧第一病院) | |
| 5. 市外の病院 | |

※診療所：○○クリニック、○○医院などの小規模な医療機関

※病 院：入院設備があり、複数の診療科目があるなどの大規模な医療機関

問6-3. 問6-1で「2. かかりつけ医はいない」と回答された方のみお答えください。

具体的な理由は何ですか。(該当するものすべてに○)

- | |
|--------------------------------|
| 1. かかりつけ医を必要とすような病気になっただけ |
| 2. どの医師、医療機関をかかりつけ医にしているか分からない |
| 3. かかりつけ医にしたいような医師、医療機関がない |
| 4. かかりつけ医のことがよく分からない |
| 5. その他 () |

問7. すべての方がお答えください。

かかりつけ医を選ぶ場合に、何をどの程度、重要視されますか。
(それぞれの項目ごとの1つに○)

	重要度	
	高い ←	→ 低い
ア. 自宅や勤務先から近い	4	3 2 1
イ. 医師の診療技術や経験等が信頼できる	4	3 2 1
ウ. 身体の調子が悪いとき、相談のつてくれる	4	3 2 1
エ. 病氣や治療についてよく説明してくれる	4	3 2 1
オ. 健康づくりや病氣の予防の相談に応じてくれる	4	3 2 1
カ. あなたの病歴や健康状態をよく知っている	4	3 2 1
キ. あなたのご家族の病歴や健康状態をよく知っている	4	3 2 1
ク. あなたの治療の意向や心情、価値観に配慮してくれる	4	3 2 1
ケ. 医師と普段からつながりがある	4	3 2 1
コ. 治療のために紹介された他の病院に入院した場合でも、入院中や退院後のサポートをしてくれる	4	3 2 1
サ. 知人・友人の評判が高い	4	3 2 1
シ. 外来に通えなくなった場合も医師が自宅に来て診察してくれる	4	3 2 1
ス. 治療中の病狀が急に悪化した時、時間外でも電話等で相談に応じてくれる	4	3 2 1
セ. 亡くなる時まで支援してくれる	4	3 2 1
ソ. その他重要視する事がありまらしたらお書きください	4	3 2 1

Ⅲ 在宅医療について

問 8. あなたは、在宅医療（※）という言葉や内容を知っていますか。（1つに○）

1. 言葉も内容も知っている
2. 言葉は知っているが、内容は知らない
3. 言葉も内容も知らない

※在宅医療とは、自宅等の生活の場、医師のほか、訪問看護師、薬剤師、各種療法士等が訪問し、計画的・継続的な医療や支援を行うことです。

問 9. あなたは、訪問診療（※）という言葉や内容を知っていますか。（1つに○）

1. 言葉も内容も知っている
2. 言葉は知っているが、内容は知らない
3. 言葉も内容も知らない

※訪問診療とは、医師が診療の計画を立てて、患者さんの同意を得て定期的に患者さんの自宅等に向向いて診療することをいいます。

問 10. 問 9 で 1 もしくは 2 を回答された方のみお答えください。

あなたは、訪問診療に取り組んでいる病院、診療所が小牧市にあることを知っていますか。（1つに○）

1. 知っている
2. 知らない
3. 聞いたことがあるが、詳しくは分からない

問 11. あなたは、訪問看護（※）という言葉や内容を知っていますか。（1つに○）

1. 言葉も内容も知っている
2. 言葉は知っているが、内容は知らない
3. 言葉も内容も知らない

※訪問看護とは、看護師が自宅等を訪問し、主治医の指示等により疾患のある人に対して療養上必要なお世話、または診療の補助を行うことをいいます。

問 12. 問 11 で 1 もしくは 2 を回答された方のみお答えください。

あなたは、訪問看護に取り組んでいる病院、診療所、事業所（訪問看護ステーション）が小牧市にあることを知っていますか。（1つに○）

1. 知っている
2. 知らない
3. 聞いたことがあるが、詳しくは分からない

問 13. あなたは、訪問歯科診療（※）という言葉や内容を知っていますか。（1つに○）

1. 言葉も内容も知っている
2. 言葉は知っているが、内容は知らない
3. 言葉も内容も知らない

※訪問歯科診療とは、歯科医院への通院が困難な方に対して、歯科医師が自宅等に向向いて診療することをいいます。

問 14. 問 13 で 1 もしくは 2 を回答された方のみお答えください。

あなたは、訪問歯科診療に取り組んでいる歯科医院が小牧市にあることを知っていますか。（1つに○）

1. 知っている
2. 知らない
3. 聞いたことがあるが、詳しくは分からない

問 15. あなたは、訪問薬剤管理指導（※）という言葉や内容を知っていますか。（1つに○）

1. 言葉も内容も知っている
2. 言葉は知っているが、内容は知らない
3. 言葉も内容も知らない

※訪問薬剤管理指導とは、薬剤師が自宅等を訪問し、医師の指示に基づき、薬の管理や指導を行うことをいいます。

問 16. 問 15 で 1 もしくは 2 を回答された方のみお答えください。

あなたは、訪問薬剤管理指導に取り組んでいる薬局が小牧市にあることを知っていますか。（1つに○）

1. 知っている
2. 知らない
3. 聞いたことがあるが、詳しくは分からない

問 17. あなたは、長期の療養が必要な病を患った場合、在宅医療を望みますか。また、実現可能だと思えますか。（1つに○）

1. 希望するし、実現可能だと思う
2. 希望するが、実現は難しいと思う
3. 希望しない
4. 現在、受けている
5. 分からない（考えたことがない）
6. その他（ ）

IV 在宅医療・在宅介護のイメージについて

問18. 自宅で医療・介護を受ける場合に、何ほどの程度、不安視されますか。
(それぞれの項目ごとの1つに○)

	不安の度合い			
	高い	←	→	低い
ア. 自宅でどのような医療が受けられるか分からないという不安がある	4	3	2	1
イ. 自宅でどのような介護サービスが受けられるか分からないという不安がある	4	3	2	1
ウ. 急に病状が変わったときの対応ができるか分からないという不安がある	4	3	2	1
エ. 訪問診療をしてくれる医師を見つけるのが難しいという不安がある	4	3	2	1
オ. 訪問看護でどのようなサービスが受けられるか分からないという不安がある	4	3	2	1
カ. 訪問診療・看護では十分な医療が受けられるか分からないという不安がある	4	3	2	1
キ. 家族に負担がかかるという不安がある	4	3	2	1
ク. 部屋や風呂・トイレ等の福祉住環境が整っていないという不安がある	4	3	2	1
ケ. 費用が高額になるという不安がある	4	3	2	1
コ. 納得のいく最期を迎えられないという不安がある	4	3	2	1
サ. 医師や看護師の訪問が精神的負担になるという不安がある	4	3	2	1
シ. その他の不安があればお書きください	4	3	2	1

V 医療・介護情報について

問19. 医療や介護についてどこ(誰)に相談しますか、またはしていますか。
(該当するものすべてに○)

1. 親族	2. 友人・知人	3. 医師・歯科医師・看護師	4. 薬局
5. ケアマネジャー等の介護の専門家	6. 地域包括支援センター(※)	7. 社会福祉協議会(※)	8. 民生委員・児童委員
9. 在宅医療・介護連携サポートセンター(※)	10. 保健センター	11. 市役所	12. 相談していない
13. その他()			

※地域包括支援センターとは、介護予防や介護サービス利用のほか、地域の総合的な相談に応じる機関です。小牧市では、5つの地域(南部、小牧、味岡、藤岡、北里)にそれぞれ設置されています。

※社会福祉協議会とは、民間の社会福祉活動を推進することを目的とした組織で、地域のひとりが住み慣れたまちで安心して生活することのできる「福祉のまちづくり」の実現をめざし、各種福祉サービスや相談活動、ボランティアや市民活動の支援、共同募金運動への協力等、様々な取り組みを行っています。

※在宅医療・介護連携サポートセンターとは、在宅医療の充実・強化のため、在宅医療に参入する医師を増加させる取り組み等を行う機関であり、小牧市では、平成27年度より小牧第一病院内に設置されています。(平成29年度までは、在宅医療サポートセンターの名称で設置)

問20. あなたが必要と感じる医療・介護の情報は何ですか。

(該当するものすべてに○)

1. 休日・夜間の診療体制や緊急医療機関について
2. 各医療機関の専門分野について
3. 在宅医療(訪問診療や訪問看護など)の内容について
4. 在宅介護(ヘルパーや訪問入浴など)の内容について
5. 退院後に利用できるリハビリテーションについて
6. 医療・介護の相談窓口について
7. 医療・介護の制度や費用について
8. その他()

VI わたしノート（小牧市版エンディングノート）について

問2.1. わたしノート（※）を知っていますか。（1つに○）

- 1. 名前も内容も知っている ⇒問2.2へ
- 2. 名前は知っているが、内容は知らない ⇒問2.2へ
- 3. 名前も内容も知らない ⇒問2.4へ

※わたしノートとは、これまでの自分の歴史や思いを記録する小牧市版のエンディングノートです。自分らしさを再発見し、家族や周囲の人等支えてくれる人たちが、「あなたらしさ」を理解する助けとなります。

問2.2. 問2.1で1もしくは2を回答された方のみお答えください。

わたしノートを持っていきますか。（該当するものすべてに○）

- 1. 持っている ⇒問2.3へ
- 2. 書いたことがある ⇒問2.4へ
- 3. 家族や支援者にわたしノートの記載内容を伝えた ⇒問2.4へ
- 4. 持っていない ⇒問2.4へ

問2.3. 問2.2で「1. 持っている」と回答された方のみお答えください。

わたしノートをご自分で手にいれましたか。（該当するものすべてに○）

- 1. 市役所
- 2. 東部市民センター
- 3. 味岡市民センター
- 4. 北里市民センター
- 5. 都市センター
- 6. 南部地域包括支援センター
- 7. 小牧地域包括支援センター
- 8. 味岡地域包括支援センター
- 9. 篠岡地域包括支援センター
- 10. 北里地域包括支援センター
- 11. 市民会館
- 12. 中部公民館
- 13. 南部コミュニティセンター
- 14. 西部コミュニティセンター
- 15. 市ホームページ
- 16. 参加した催しや講座
- 17. その他（ ）

問2.4. あなたは、人生の最終段階（終末期）を、どこで迎えたいと思いますか。（1つに○）

- 1. 自宅
- 2. 病院
- 3. 老人ホームなど施設
- 4. 分からない（考えたことがない）
- 5. その他（ ）

VII 自由意見

問2.5. 在宅医療・在宅介護に関するご意見やご要望がございましたら、ご記入ください。

ご協力ありがとうございました。

小牧市 在宅医療・介護連携に関する
アンケート調査報告書

発行日 令和元年12月
発行 小牧市
編集 小牧市役所 健康福祉部 地域包括ケア推進課
住所 〒485-8650 小牧市堀の内三丁目1番地
連絡先 TEL：0568-76-1188（直通）
FAX：0568-75-5714